

2021 年度事業報告書

- 1、全体の報告(成果と課題)…16
- 2、事業報告…17
 - A ボランティアセンター…17
 - B フードバンク宇都宮…19
 - C 災害救援…22
 - D NPO活動推進センター…25
 - E とちぎコミュニティ基金…29
 - F 県北Vネット…34
- 3、その他の事業…36
- 4、財政・組織運営…36

1. 全体の報告 (成果と課題)

①知名度が増したとちぎコミュニティ基金

前期から行ってきた「とちぎのミライをつくる大会」は助成金活用の報告会のみならず、県内の主要なNPOの交流の場として重要な役割を果たした。参加者から「他団体との交流が持ててよかった。」と好評を得るなど、とちぎの存在や知名度を高める重要な大会となった。

合同ファンレイジングイベントについては、サンタ de ランのほかにチャリティウォーク(CW) 県北・宇都宮を加えることになった。CWは大田原市と宇都宮市の2か所で開催することができ、前期を上回る寄付金を集めることができた。

②社会福祉士を活用した総合相談体制の確立

フードバンクへの困窮者の訪問が前年度比1.28倍(1,658件)に増えた。それに伴い職員スタッフの相談に対する負担が増えていた。対応策として、相談ボランティアの増員と社会福祉士の資格を持っている3名を相談員に配置した。制度では解決できない多種多様な相談事例に対応することで、社会問題を解決するソーシャルワークを担う下地作りができてきた。本会の相談事例をもとに行政に対して政策を提言する関係づくりを構築する必要がある。

独立型社会福祉士事務所開設から3年が経過したことにより、社会福祉士養成のための実習生の受け入れを開始し、1名の実習生を受け入れた。

③期待値が高いユニバーサル就労支援事業

働きづらさを抱えているすべての人の出口の一つとして、ユニバーサル就労研究会を立上げて取り組んできた。昨年10月17日にユニバーサル就労ネットワーク栃木の発足会を行った。発足会に参加した行政職員も関心と期待が高いことを実感した。しかし、受入れ先の認定就労訓練事業所の登録数が少なく、現状では利用者と企業のマッチングが困難なことが判明した。受入れ企業の開拓により5社増やすことができたが、更に多種多様な受入れ業者が必要である。受入れ企業の開拓や、業種毎の研修プログラムの整備が急務である。

④資金助成や団体基盤強化を行う「休眠預金事業」

2020年度末に、日本民間公益活動連携機構(JANPIA)の「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の資金分配団体として応募し、本会・とちぎコミュニティ基金が採択され1900万円を配分した。

休眠預金事業の実施で、栃木県内のNPOや市民活動にあらたな財源と伴走支援のしくみができることになった。団体自ら周囲を巻き込んでいくファンレイジングやボランティアコーディネートを高めていく組織基盤強化に重点を置いている。今期も資金分配団体に採択され継続化する事業となっている。

⑤活性化した県北事務所

県北事務所はコロナ禍の影響で子ども食堂など対面による活動が停滞していたが、**チャリティウォーク県北**や**クリスマスウォーク**の開催で30代から60代のボランティアの寄付集めが成果を上げている。

毎月第2土曜日の**食品配布会**も定例となっている。

次期は3年間の日本財団の**子どもの第3の居場所事業**の助成金も獲得した。高齢の既存スタッフの世代交代と助成事業終了後に自主運営ができる寄付金を集める体制づくりが課題である。

⑥Vレンジャーなど若者ボランティアの活躍

学生若者ボランティアチーム「**Vレンジャー**」や、**みんながけっぷちラジオ学生**、**しもつけ自然のアルバムインターン学生**、**フードバンクインターン学生**、**ボランティア**など、**総勢50人を超える**学生が集まっている。本会で実施した、アイデア出しとボランティア間の交流を目的とした「**来年なにをするか会議**」や「**来年これしたいコンペ**」にも若者ボランティアが積極的に参加した。若者からは「自分にもやれることがたくさんあると気付いた」「大学生活では出会えない大人と出会えていい機会になった」などの感想があった。チームを横断して交流が生まれ、お互いの活動への行き来を通じて視野が広がることで、積極的に活動に参画する若者も増えている。また、前期から実施している年に1回の「**若者会議**」は、若者ボランティアの有志が企画・運営から携わった。社会問題の学びの機会になった。今後も若者が社会とつながり、課題を考える場をつくり、成長を促していく。課題としては、学生かつボランティアという特性上、入れ替わりが激しい中で、ボランティアマネジメントを効果的に行えるスタッフ・ボランティアの育成が求められる。

⑦コンテンツが充実したラジオとYoutubeやネットによる発信

「**みんながけっぷちラジオ**」、「**次世代に伝える原発避難10年目ラジオ**」を宇都宮コミュニティFM「**ミヤラジ**」で放送した。また**SAVE JAPAN**プロジェクトの「**しもつけ自然のアルバム**」を下野コミュニティFM「**FMゆうがお**」で放送した。各放送とも動画撮影を行い、**Youtube (VCHANNEL)**でも視聴できるようにした。コンテンツの数も増え、SDGsに関する話題も豊富にある。しかし、視聴回数が2桁回数に留まっているので、声掛けなどの地道な広報が必要である。

ブログやSNSについても発信回数を増やし、閲覧回数を飛躍的に伸ばした。

⑧コロナ禍で加速、フードバンク利用件数2年で2倍

コロナ禍において「**困窮者**」と「**困窮者を助きたい人**」を**結ぶ受け皿**として機能した。食品配布会では、県北、宇都宮と合わせ**1,929世帯**へ食品を届けることができた。2年間で、相談件数は2倍の1,658件、食品寄付(40.1t)と食品支援(38.9t)はともに4倍に増えた。困窮当事者だけでなく行政や社協の現場担当者からの「**フードバンクがあってよかった**」の声に支えられ、国内でほぼ唯一の相談援助機能があるフードバンクとして「**私たち自身によるセーフティネット**」が機能したことを証明する結果となった。

しかしながら、県内の困窮者の数は減少していない。当事者・担当者だけではなく、広く社会にフードバンクを知ってもらい、ともに協力していくことが必要である。

2. 事業報告

A. 【ボランティアセンター】

(1)総合相談事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」SOSニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別SOSの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

①総合相談支援センターの運営

総合相談支援センターは、FBうつのみやでのSOS対応とその後の生活支援、さらに若者支援や社協の困窮者自立支援事業からの依頼ケースに対応するため本会が行ってきた「個別のSOSに同行支援する方法」を全面的に公開して実施した。この事業ではボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することが、これからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

【表1 相談者の状況のまとめ】

	のべ (回)	月平均 (回)	実数 (件)	内複数回 支援(件)	宇都宮市内/市外 ()は住所不定	世帯の人数	男/女
2012年度	30	2.5	30	5	19(9)/11(1)	単身:23、2人:5、3人以上:2	22/8
2013年度	75	6.25	46	11	32(10)/14(1)	単身:27、2人:14、3人以上:5	28/18
2014年度	196	16.08	135	25	72(47)/16	単身:101、2人:11、3人:6、4人:3、5人:5、6人:1、7人:3、10人:1	106/29
2015年度	243	20.25	165	49	102(11)/65(25)	単身:140、2人:25、3人:11、4人:7、5人:6、6人:4、8人:1	118/47
2016年度	350	29.8	185	49	144/18(23)	単身:126、2人:33、3人:10、4人:10、5人:3、6人:1、7人:1、10人:1	124/61
2017年度	572	47.7	248	182	177/15(29)	単身:158、2人:35、3人:11、4人:11、5人:6	160/61
2018年度	685	57.1	304	159	272(32)/32(20)	単身:218、2人:49、3人:19、4人:9、5人:4、6人:4、7人以上:1	217/87
2019年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身:271、2人:51、3人:26、4人:13、5人:3、6人:2、7人以上:0	261/105
2020年度	1298	108.2	495	247	446(29)/49(10)	単身:368、2人:74、3人:36、4人:10、5人:4、6人:0、7人以上:3人	340/155
2021年度	1658	138.25	542	290	514(28)/28(5)	単身:377、2人:75人、3人:62人、4人:17人、5人:5人、6人:2人、7人以上:4人	353/189

【全世帯】542世帯

—2021年度—

●主な困窮の内容(複数): 仕事探し・失業・就職、290 病気・健康・障害 67、住居 9、金銭管理・所持金無し 393、精神疾患・人間関係など 34、日々の生活(低年金)212、債務(家賃滞納など含む) 37、子育て・介護 10、DV・離婚など 7

●生活保護の世帯数: 受給利用中: 88、手続き中: 38

●本会までの経路: 自治体(生活福祉課・子ども家庭課・保健所など) 163、社協(県内社協含む) 51、宮ハローワーク 13、地域包括支援センター13、NPO1、ネット・テレビ 28、その他 83

【住居なし】24世帯

●男女比は、男 20 : 女 4 単身 24世帯

●困窮の内容(複数) 仕事探し就職 8、ホームレス 19(うち車上生活 2、移動中 4)、住居 1、精神疾患・人間関係 5、収入生活費・低年金 4、病気・健康 3、離婚 1、孤立 3

【女性相談者】189世帯

●単身 86/世帯持ち 103(内、母子家庭 2-子育て世代 2)

●困窮の内容(複数): DV離婚など 5、病気・精神疾患 41、仕事探し・失業 3、金銭管理不能・債務 23、DV1、無・低年金 1、子育て・介護 1

「とちぎボランティアネットワーク独立型社会福祉士事務所」として総合相談支援を行い、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなど数多くの支援実績を積むことができた。今期の支援件数は542件(世帯)のべ1659回と、回数は前期の1.28倍になった。「個別SOSへの対応とともに社会課題の解決を図る」部門として自立的な活動が定着しつつある。

奨学米プロジェクトは23世帯(のべ60回)、奨学米524kg、食品486kg、野菜配送41回となった。従来通りの活動であり支援対象世帯は増えなかった。しかし継続的な個別支援をするなかで、児童相談所や市役所の子ども家庭課との連携もできた。

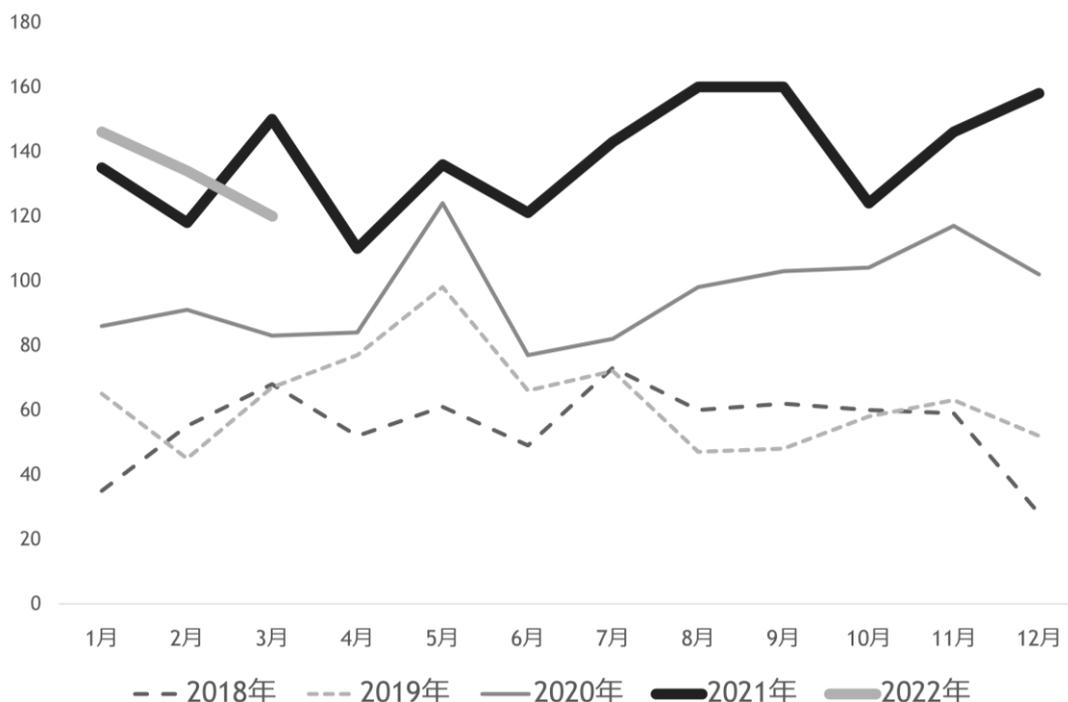
表1は相談者の状況のまとめである。母子家庭など地域で定着している困窮者(世帯)への支援方策は見えてきたが宇都宮の母子家庭だけで2700世帯(推定)あり、掘り起しが必要である。

表2では、2018年度から2021年度のフードバンク利用回数を月別に表した。2021年度は前年度、全々年度に比べどの月も利用回数が多い。増加の要因としては①コロナ禍で実際に困窮する人が増えたこと、②フードバンク自体の認知度が高まったこと、③複数回の利用者が増えたこと、つまり一度の支援では生活が立ち直らなくなっていることが考えられる。

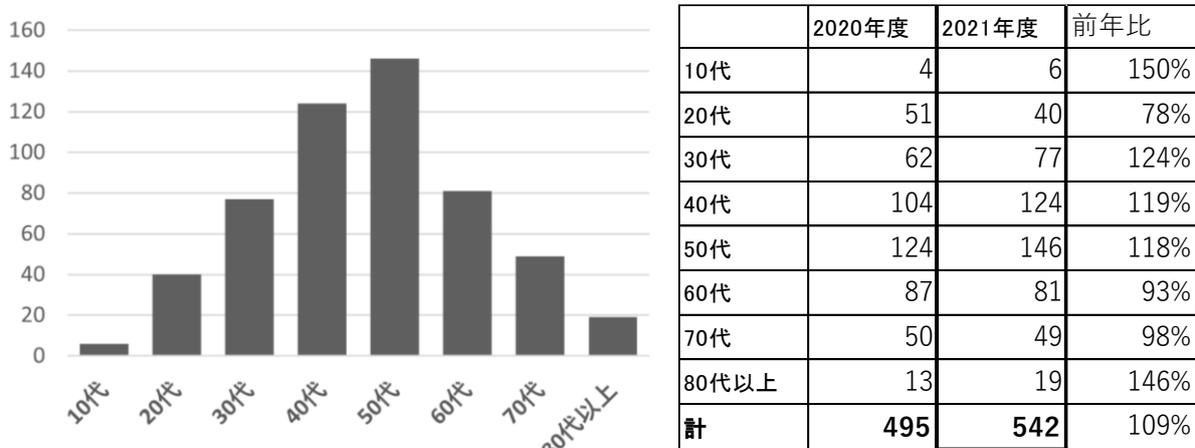
表3では、2021年度の世代別利用世帯数を表した。2021年度は前年度と同様、50代が146世帯、40代が124世帯と、働き盛りや子育て世代の利用が多かった。その他、10代、30代、80代以上の利用も増加した。ただし、記録

は相談者の代表者の年代であるため、子育て世帯の困窮⇨子どもの貧困も視野に入れる必要がある。

【表2 フードバンク利用回数（月別：2018～2022年度）】



【表3 世代別利用者数（2021年度）n=542】



②コールセンター栃木の運営支援

今期も厚生労働省社会的包摂ワンストップ相談支援事業を(一般社団)社会的包摂サポートセンターを通し「コールセンター栃木」の運営をした。栃木では16人のスタッフで年間2205件の電話相談に対応した。そのうち同行支援の必要があるものについては、継続相談員が直接面会をするなどの同行支援をおこなった。

(2) ボランティア・コーディネーション事業 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

① キャンプで救う子どもの貧困、Vレンジャー

「キャンプで救う子どもの貧困」をテーマに、子どもの「体験の貧困」をなくすために活動する若者ボランティアチーム、Vレンジャー。2019年夏から活動を始め3年目の活動になった。2021年度は子ども向けお便りと動画の作成（全4回：8～10月）、子どもの部屋たんぼぼとのオンライン企画（6回：9月～）、年間で計23回の会議をした。8月にキャンプ、2月に凧揚げ企画を予定していたが、新型コロナの緊急事態宣言の影響でどちらも中止となった。子ども向けの企画の他に、ボランティア募集のための活動説明会や、他団体主催の企画への参加、子ども食堂のボランティアもした。新聞等のメディアにも取り上げられ、活動の認知度が高まった。今年度で新しく大学1年生が14人増え、現在計30名で精力的に活動している。

企画名	主催	日程	外部参加者	参加者
春企画@塩谷	Vレンジャー	4/4	—	10人：山崎、廣居、村上、三上、吉沢、青木、宮坂、大小原、大木本、布施
新メンバー歓迎会	Vレンジャー	5/9	—	14人：鎌田、山崎、廣居、大小原、村上、田中、芳賀、高橋、山本、佐藤、宮坂、伊東、寺崎、田代
子ども食堂ボランティア	上大曾てらこや食堂	6/13	—	2人：大小原、宮坂
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	7/12	—	2人：宮坂、村上
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	8/9	—	2人：宮坂、中島
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	8/23	—	1人：廣居
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	9/13	—	1人：中村
オンライン企画①	Vレンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	9/21	—	2人：宮坂、菅原
オンライン企画②	Vレンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	9/28	—	2人：佐藤、芳賀
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	10/11	—	1人：中島
子ども食堂ボランティア	上大曾てらこや食堂	10/23	—	2人：中島、宮坂
オンライン企画③	Vレンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	10/26	—	2人：芳賀、中島
子ども食堂ボランティア	上大曾てらこや食堂	11/13	—	2人：中島、高橋
植樹体験@足尾	足尾に緑を育てる会	12/5	子ども2人、大人2人	14人：山崎、中村、中島、芳賀、土崎、小林、菅根、山本、佐藤、高橋、菅原、廣居、村上、宮坂
子ども食堂ボランティア	上大曾てらこや食堂	12/11	—	2人：中島、佐藤
オンライン企画④	Vレンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	12/27	—	2人：高橋、廣居
オンライン企画⑤	Vレンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	12/28	—	1人：山本
オンライン企画⑥	Vレンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	1/6	—	2人：佐藤、廣居
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	1/10	—	2人：伏本、阿部
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	3/28	—	1人：菅原
こどもの居場所ボランティア	子どもの部屋たんぼぼ	3/30	—	2人：佐藤、茨木

(3) 講師派遣事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は**28回**（聴講数のべ723人）で講義回数聴衆とも前期の倍増した。講義内容はコロナや困窮世帯のこと、災害など多様であった。

	回	月日	講座名（内容）	主催等	場所	講師	聴衆
1	8	4/23～	「ボランティア論」	宇都宮短大	宇都宮	矢野（小澤・宮坂）	80
2	2	4月	「FB活動について」	シルバー大学中央校	宇都宮	伊東	90
3	4	6/22～	「国際NPO起業論」集中講義	宇都宮大学・大学院	事務所（ZOOM）	矢野	32
4	3	7/3-4	「全国ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）」3講義＝①「原発避難」全体会、②災害分科会、③コロナ禍の中間支援団体の財源シンポジウム	本会含む実行委員会（大阪ボランティア協会）	大阪	矢野	75
5	1	7/17	那須塩原子どもSUNSUNプロジェクト・発足シンポジウム	那須塩原子どもSUNSUNプロジェクト	那須塩原	矢野（塩澤）	100
6	1	9月	ふれあいコープ職責者学習会「コロナ禍でのフードバンクの活動」講師	（社福）ふれあいコープ	宇都宮	小澤	30

7	1	10月	「障害福祉と支援」司会&講師	障害者のひとり暮らしを考える会	宇都宮	宮坂	20
8	1	11月	NPO論（FBと子どもの貧困）	独協医科大学・看護学部	壬生	矢野	120
9	1	11月	宇都宮ロータリークラブ卓話	宇都宮ロータリークラブ	宇都宮	徳山	30
10	1	12月	「コロナ禍の子どもの貧困」講義	国際ロータリー栃木地区	宇都宮	矢野	6
11	1	12月	FBとは：活動説明会	三栄不動産	宇都宮	伊東	12
12	1	1月	「地球異変下の災害と復興シンポ」講師	関西学院大学災害復興制度研究所	兵庫・西宮	矢野	50
13	2	1月～	震つな・移動寺子屋「27年目のボランティア文化」パネリスト	震災がつなぐ全国ネットワーク	事務所(ZOOM)	矢野	70
14	1	3月	高校生ボランティア講座	NPOこどものとなり佐野	佐野	矢野	8

事業報告 B.【フードバンク】

(1)フードバンク事業（生活困窮者の支援）

賞味・消費期限内の食品を無償でいただき無償で配るフードバンク（FB）活動は、今期は **40.1 トンの食品受贈**があった。企業や農協協同組合そして通販で食品を寄付してする人が増加した。

直接支援を求める人の数はP2に記載されている通りだが、増える相談者に対して相談支援のほかには食品配送、回収、管理ボラなどの運営スタッフを増やしていく必要がある。

月	受贈量 (kg)	寄贈量 (kg)
4月	1878	3174
5月	2338	2647
6月	3284	3434
7月	1638	2468
8月	2438	2961
9月	4549	3651
10月	6075	2947
11月	3425	3833
12月	6665	3342
1月	2361	4684
2月	2394	3606
3月	3119	2582
合計	40,163	39,329
前年(2019)	36,724	37,135
増減	+3,439	+2,194

コロナ禍でバイト、日雇い、非正規で就労している人の生活が苦しくなっていることで、食品配布会を対面及び宅配便を使って **11回実施、1,353世帯**に配布した。配布会に伴いアンケート等で大学生からはコロナ禍前は3食食べることができていたが、コロナ禍においては2食しか食べることができない人がいることを実感した。その他外国籍・外国ルーツ人たちについても困窮している人が多いことが判明した。

食品配布会：11回

1.4/10: 84セット 手渡し 2.5/15 72セット 手渡し 3.6/26:201セット 手渡し 4.8/7: 75セット 手渡し 5.9/11: 75セット 宅配 6.10/13 120セット 宅配便 7.11/12 200セット 宅配 8.12/4 121セット 9.1/15 120セット 宅配便 10.1/29 120セット 宅配便 11.2/11 120セット 宅配

① フードドライブの実施、及びきずなボックスの設置

フードドライブの食品受口として**食品受付箱（以下：きずなボックス）**を設置するため公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等の **23か所**に設置した。一定の宣伝効果があるが、きずなボックスの食品受取は、管理する店舗の善意とボランティアによる回収が前提なので、今期はコロナ禍の影響もあり3か所増えたのみだった。

フードドライブ（FD）を定期的実施した（とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、ハーベストウォーク）。また市内・光琳寺では毎月1日に境内で行うラジオ体操時にFDを実施した。3月は新型コロナウイルスの影響で全部中止となった。

一方でFDでの食品量増加に伴い、セカンドハーベスト・ジャパンからの供給される飲料や冷凍食品など「ストック食品の優先順位が低い」ものの受け入れはほとんどしなかった。今後は、新型コロナの影響で困窮者が増えることが予想される。**倉庫、ボランティア、食品、資金の調達**が急務になっている。

「きずなボックス」・「食品受付窓口」設置場所

No	設置場所	団体名(住所)	No	設置場所	団体名(住所)
1	戸祭地域コミュニティセンター	戸祭地区 民生委員・児童委員協議会 (宇都宮市戸祭 1 丁目 10-25)	14	さくら・ら心療内科	(宇都宮市桜 3 丁目 1-36)
2	とちぎコープ越戸店 (サービスカウンター)	とちぎ生活協同組合 (宇都宮市越戸 3 丁目 12-9)	15	協立診療所	栃木保健医療生活協同組合 (宇都宮市 宝木)
3	とちぎコープおもちゃのまち店 (サービスカウンター)	とちぎ生活協同組合 (壬生町至宝 3 丁目 12-31)	16	ふたば診療所	栃木保健医療生活協同組合 (宇都宮市)
4	とちぎコープ鶴田店 (サービスカウンター)	とちぎ生活協同組合 (宇都宮市鶴田町 861)	17	はやぶさ交通株	(宇都宮市江曾島町 1 1 8 1 -3)
5	ヒカリ座	ヒカリ座 (宇都宮市江野町 7-1-3)	18	しのいの郷	社福) 房幸会 (宇都宮市上小池町)
6	やさいくだもの村さくら店	(宇都宮市松原 2 丁目 2-51)	19	末日聖徒イエス・キリスト教会	(宇都宮市幸町)
7	宇都宮市役所・ゴミ減量課	宇都宮市 (市役所 12 階)	20	浄鏡寺	(宇都宮市塙田 2 丁目)
8	光琳寺 (毎月 1 日のみ)	(宇都宮市西原 1 丁目 4-12)	21	アカデミックロード宇都宮校	アカデミックロード AR (宇都宮市伝馬町)
9	恵光寺	(宇都宮市下栗町 2255)	22	栃木県ボランティア活動振興センター	(宇都宮市若草 福祉プラザ 1 階)
10	栃木県社会福祉士会事務所	(宇都宮市若草 福祉プラザ 1 階)	23	宇賀神新聞店 (集金日に回収) 電話 028-625-0870	(宇都宮市上戸祭 2 丁目 1-45)
11	宇都宮卸商業団地協同組合事務所	(宇都宮市問屋町 3 1 7 2-1)	24	ファミリーマート (五代二丁目店)	(宇都宮市五代二丁目)
12	JU 栃木	(宇都宮市上欠町 1021-3)	25	ファミリーマート (緑野店)	(宇都宮市緑野町)
13	ミヤラジ	(株)宇都宮コミュニティーメディア (宇都宮市江野町 7-8)			

フードドライブ：20 回 ・毎月 1 日(金)光琳寺 FD(きずな BOX 設置)12 回 ・4/4：とちぎコープおもちゃのまち店 FD (石江、徳山) ・5/16：地球思いやりマルシェ FD (徳山) ・5/18：いちごハートネット FD ・10/2:ECO テック&ライフ栃木 2021 FD	・11/14：地球思いやりマルシェ FD (徳山) ・11/18：JU 栃木チャリティーオークション FD (木下) ・11/7：とちぎコープ越戸店 FD (石江、釜) ・3/27：ハーベストウォーク (伊東、白鳳大生2名)
--	---

②FB 食品の利用「奨学米プロジェクト」

学齢期の子供がいる低所得の母子家庭等に対し毎月定期的に米を提供し、浮いたお金で学用品などを買ってもらう「奨学米プロジェクト」を実施した。月 1 回の米の他に、合間に**野菜・パンの配達**もボランティアによって実施した。母子家庭のほとんどは働いているが非正規が多く、また生活・通勤に都合で自家用車を持っている場合、生活保護を受けられない。低所得のうえ社会保障の給付の枠組みから外れていて、事実上生活保護以下の暮らしをしている人も多い。

「お母さんたちは毎月定期的に支援者と話すことで困り事を言える状況が生まれ、母子家庭の孤立を防ぐことが主眼である」が、相談体制がうまく構築できず、支援世帯数も増やせていない。日夜働きつめの母との接点の時間がないことが原因である。引き続き**女性支援ボランティア等**を育成し、お母さんの悩みを聴ける体制を整える必要がある。

学齢期にある生活困窮家庭への“奨学米”プロジェクト要項	
1. 目的 2010 年度の国の調査では、母子家庭のうち 65%が年収 180 万円以下であり、夫婦 2 人世帯の平均年収では 300 万円以上の差がある。また国民の相対的貧困率は 16.1%であるが母子家庭の貧困率は 54.3%である。様々な事情で身内や地域に頼れない人も多くフードバンクに頼れない(頼らない)人も多い。さらに 2014 年度に本会・フードバンク(FB)宇都宮が、女性(世帯)へ支援した割合は 3 割であり、非常に少ない。 こうしたことから、FB うつつのみやでは学齢期の子供がいる母子家庭等に対し、米による家計負担の支援を定期的に行い、同時に生活の	②対象世帯数 20 世帯。米の確保、倉庫の課題が解決されれば対象者数の増加も検討する。 ③米保有量は 4.8 t (10 kg × 12 月 × 20 世帯) ④配送方法は原則としてボランティア等が相手宅まで届ける。配送の際に相手宅の玄関をまたぐことが関係構築や状況把握の上で重要と考える。(場合によってはフードバンク事務所に本人が来ることも可とする。) ⑤配送日は原則として、火曜日 13:30-17:00。対象者の都合が悪い場合は要相談。

<p>相談を行うことで困窮母子家庭の生活支援をしていく。 母子家庭等と、本会職員・ボランティアがつながりを持つことによって、何か困った時に頼ることができる関係＝縁を作り、一緒になって解決できるようにすることが重要である。</p> <p>2、対象者 ・原則として県央地区に住む学齢期の子供がいる母子家庭等、20世帯 ・低所得（例/3人家族で月収20万円、年240万以下）の世帯であり、身内や友人にたよることが難しい世帯。 ・生活保護世帯は対象外とする。</p> <p>3、内容 ①1か月白米10-30kgの支援を毎月行う。対象世帯の人数と状況を勘案し決定する。</p>	<p>⑥受付はVネット事務所（028-622-0021）で行う。 ⑦ボランティアは5人程度募集。同じ人が同じ家庭に継続的にかかわる。 ⑧保管は米で行いその都度精米する。保管場所は、当面F B大田原の倉庫とするが、宇都宮近郊で倉庫を探していく。 ⑨配送社はF B所有の車両やボランティアの自家用車とする。</p> <p>4、広報 ・米募集…インターネット及び、チラシを作成しJ Aやコープ等に営業。 ・対象世帯向け…対象世帯むけのチラシを作成。DV関係N P O、母子家庭関係者に対象世帯の選定、ピックアップの要請をする。 ・ボランティア募集…チラシの他、インターネットでの周知、本会会員・ボランティアに対しては電話、機関紙等での勧誘を行う。 (福祉プラザ、まちびあ、ピックアップ要請団体、若者支援系の団体)</p>
---	--

③広報

きずなセットと「生理用品」をセットで配布したことが大きな反響を呼び、フードバンクの宣伝を高め一定の成功を収めることができた。情報拡散効果が強いtwitterを中心にSNSでほぼ毎日、情報を更新した。フォロワー数も3500人以上になった

④各拠点の事業

全拠点の特徴として、行政や社協などの支援機関を通して食品支援を実施した。

<フードバンク県北> 支援機関の要請により食品支援の実施。毎月第2土曜日に食品配布を実施。

<フードバンク日光> 毎月第1水曜日に会議を実施。行政からの困窮者支援依頼を中心に対応している。食品配布会を不定期に3回実施。

F B日光会議：12回 4/1、5/6、6/3、7/1、8/5、9/2、10/7、11/4、12/2、1/6、2/3、3/3

<フードバンク那須烏山> 行政、社協からの依頼のあった困窮者へ食品支援を中心に行った。

<p>フードバンク(ボランティア)会議(毎週木)：49回 4/2、4/9、4/16、4/23、4/30、5/7、5/14、5/21、5/28、6/4、6/11、6/18 6/25、7/2、7/9、7/16、7/30、8/6、8/20、8/27、9/3、9/10</p>	<p>9/17、9/24、10/1、10/8、10/15、10/22、10/29、11/5、11/12、11/19、11/26、12/3、12/10、12/18、12/24、1/7、1/14、1/21、1/28、2/4、2/10、2/18、2/25、3/4、3/11、3/18、3/25</p>
---	---

⑤チャリティウォーク県北 21、宇都宮 22 の運営と参加

F Bの支援者の拡大と寄付金造成のためチャリティーウォーク(CW)を実施した。今期からは「とちぎコミュニティ基金」主宰で実施し、他団体とともに実行委員会に参加した。(P19)

(2)ユニバーサル就労研究会 (生活困窮者の支援)

本会、ふれあいコープ、とちぎコープの3者を中心に、労働者協同組合、独立型社会福祉士事務所、弁護士などを加えて、2019年9月からユニバーサル就労研究会を毎月1回開催してきた。

今期は9月に「ユニバーサル就労ネットワーク栃木」を発足した。次期(2022年度)市の困窮者自立支援事業・就労準備支援の受託にむけて活動を開始した。ネットワークは「中間的就労事業所」を県内に増やしていくために企業・事業所への営業を行う中間支援団体である。本会の独自財源と企業・事業所からの出向の営業担当者を迎えて、2021年9月の受託事業開始を目指す。今後、企業の開拓、内部の受入態勢の整備、伴走支援の人材育成、広報、資金調達など、ほぼすべての点で未着手の状況である。

<p style="text-align: center;">ユニバーサル就労ネットワーク栃木 設立趣意書 (10/)</p> <p>◆障害者以外にも、自分で働き口を見つけられない人が急増 昔は学校を卒業して、自ら就活して就職したり、失業してもハローワーク等で再就職先を見つけるのが当然とされてきた時代がありました。しかし、現在は、何らかの支援なしでは働く場を見つけられない人が急増しています。これまでは働くための支援が必要なのは障害者に限定されており、障害者にはさまざまな就労支援制度が充実してきました。現在は、引きこもり、生活困窮、さらにはひとり親、若年性認知症、がん発症、LGBTsなど、働きづらさの要因が多様化、複雑化しています。</p>
--

宇都宮にあるフードバンクでは、毎日、生活困窮者が食品を求めてやってきます。食べ物が無い理由はさまざまです。多くの人は「適切なサポート」があれば困窮しなかったかもしれません。病気、失業、障害、孤立、ひとり親家庭、車がない、職場の人間関係が苦手、引きこもり、外国ルーツの人、80-50問題の当事者、低年金、刑余者・・・

◆ユニバーサル就労は「働きづらさをかかえた人」を職場に迎え入れる仕組み

ユニバーサル就労は、理由を問わず、働きづらい状態にある人を職場に迎え入れる取り組みです。栃木県内ではまだあまり取り組まれていません。先進地である千葉県では2014年から「ユニバーサル就労ネットワークちば」が活動を開始し、これまでに100人が就労しています。この取り組みを栃木県内で開始したいと思い、「ユニバーサル就労ネットワーク栃木（仮）」を設立しました。

◆SDGsの「働きがいも経済成長も」、「みんなで取り組む」

SDGsの中にも、誰もが働ける場をつくること「働きがいも経済成長も」という項目があります。これは、福祉だけが、企業だけが、行政だけが個別に対応していても実現できません。さらにSDGsの17番目の「みんなが力を合わせ、一緒に」とりくむことが必要です。

◆「つなぐ」役割になります。一ネットワークと中間支援一

そのためには、複数の企業・事業所とネットワークを作り、多くの「働きづらさを抱える人」の伴走支援をし、両者を適切に「つなぐ」役割—中間支援組織（センター）—が必要です。みんながいきいきと働ける働きがいのある栃木を創るために、みなさんもぜひユニバーサル就労ネットワーク栃木に参加してください。

■設立準備委員会

○コラボワーク（企業組合 とちぎ労働福祉事業団） ○とちぎコープ生活協同組合 ○一般社団法人 栃木県若年者支援機構

○認定NPO法人 とちぎボランティアネットワーク ○公益財団法人 とちぎYMCA ○一般社団法人 社会福祉士事務所にじみる

○八幡山法律事務所 ○社会福祉法人 ふれあいコープ ○NPO法人 フードバンクうつのみや ○一般社団法人 南栃木社会福祉士事務所

■事務局/栃木県宇都宮市埴田2-5-1 共生ビル3F（とちぎボランティアネットワーク内）

電話028-622-0021

C. 【災害救援・復興支援活動】

(1) 救援・復興支援事業（災害救援事業）

今期の活動は実施しなかった。佐賀水害については募金活動を実施した（P12）

①復興支援活動：まけないぞうプロジェクト

今期も東日本大震災被災地の復興支援のために「まけないぞう」の制作・販売を行った。寄付でいただいたタオルを、被災地のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会が買い取って販売し売上の25%が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になる。当期は259頭、51,800円の売上となった。

(2) 三者連携/防災についての会議・研修（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

今期は活動・会合がなかった。

2019年の台風19号水害を契機に、県、内閣府ともにわかに「三者連携」会議等が増えたが、県の担当者が平均2年で変わり、担当の室長は毎年異動していく栃木県庁の体制そのものが機能不全である。

(3) 「とちぎVネット災害救援ボランティア基金」（NPOの活動資金の援助事業）

今期は実施しなかった。

D. 【NPO活動推進センター】

(1) NPOに関する相談・協働事業 (NPOの育成事業)

①福島からの避難者支援「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」

福島県から「復興支援員設置事業」と「生活再建支援拠点事業」の2つの事業を受託した。栃木県内には福島からの避難者が推定2000人いるが、この世帯に対して復興支援員(非常勤2人)は避難者の訪問支援活動をした。全戸訪問した名簿で毎月2回、要継続支援30人を対象に実施した。また**広報誌『とちぎ暮らしの手帖』を3回発行した。**

生活再建支援拠点は**避難者が来訪し相談できる窓口**として週3日開設した。今期はコロナ禍で交流会を実施できなかったため避難者が出演する**ラジオ番組を実施。毎月第2日曜に「次世代に伝える。原発避難10年目ラジオ」**を放送した。さらに、動画でも配信し、3月には3時間の特別番組を実施した。

回	放送日	出演者/居住地/出身地	コーディネーター/ラジオ学生
1	6/13	・出演者：志賀仁(71)下野市在住/双葉町出身の避難者	コーディネーター：北村雅、ラジオ学生：櫻井脩弥
2	7/11	・出演者/三浦秀一(66)、茨城県結城市/南相馬市小高区の避難者	・Co：北村雅、ラジオ社会人：伊藤由晃
3	8/8	・出演者/黒木久美子(4歳)、小山市/福島市出身の避難者	・Co：北村雅、ラジオ学生：佐藤里奈
4	9/12	出演/石黒修市(66)真岡市/富岡町出身。当時の知的障害者更生施設長	・Co：北村雅、ラジオ学生：田中悠斗
5	10/10	出演者/①山本悦子(73)、小山市・喫茶店フジ。②澤上幸子/双葉町から故郷愛媛県松山市で避難者を支援する。	・Co：北村雅、ラジオ学生：小浜佳凜
6	11/14	出演/磯村福治(76)小山市、福島県富岡町から避難原発建設メンテランスに従事。出身地は愛知県常滑市。	・Co：北村雅、ラジオ学生：櫻井脩弥
7	12/14	出演/大山香(50代)、宇都宮市/福島県福島市からの自主避難者。	・Co：北村雅、ラジオ学生：小浜佳凜
8	1/13	出演/遠藤雄子(60代)栃木市/福島県川内村から避難。	・Co：北村雅、ラジオ学生：櫻井脩弥、鈴木花梨
9	2/13	出演/榎原比呂志(60代)栃木県栃木市在住/福島県双葉町から避難。	・Co：北村雅、ラジオ学生：櫻井脩弥、鈴木花梨
10	3/13	出演者/①志賀仁、②榎原比呂志、清水菜名子/①双葉町～下野市に、②双葉町から栃木市に。	・Co：北村雅 ラジオ学生/櫻井脩弥、宮坂真耶、鈴木花梨、佐藤優

②SAVEJAPANプロジェクトの運営「しもつけ自然のアルバム」の制作

2020年10月から損保ジャパン日本興和と日本NPOセンターの運営による「SAVELAPANプロジェクト」の助成を受け、**下野市自然に親しむ会と本会との協働**による環境保全プロジェクトを実施した。最大で3年間の助成となるが、1年目は下野市の現場での活動とともに、下野コミュニティFM(FMゆうがお)による広報を行った。本会は特にSDGsのための行動変容を促すための環境保全、生物多様性の5分間番組「しもつけ自然のアルバム」を学生3人(菊地真以、麦倉悠斗、島崎春奈)とともに制作し、ラジオ、動画で配信した。

【下野自然のアルバム：5分間番組/動画】

回	放送日	テーマ	出演者	制作者
1	3/3	「森林博士に聞いてみた！地球温暖化と森林について」	大久保達弘(宇都宮大学農学部森林科学科教授)	菊地真以
2	3/14、17	「ハエの生態を知ってハエを好きになろう?!」	伊村務(ナチュラリスト)	麦倉悠斗
3	3/28、31	「農業とコウノトリーふゆみず田んぼとは？」	小山市農政課/稲山、自然共生課/野口	島崎春奈
4	3/21、24	「身近な昆虫食ーカメムシ、ケラ…食べたことある？」	栗原隆(栃木県立博物館)	島崎春奈
5	4/11、14	「奥日光のシカ対策」	松本翔一(自然公園財団日光支部)	菊地真以
6	4/25、28	「ミミズの知られざる生態について」	南谷幸雄(栃木県立博物館)	麦倉悠斗

③委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。コロナ禍で書面などでの報告が多かった。「**栃木県災害ボランティア活動連絡会議**」0回、「**県社協ボランティア活動振興センター**」書面1回。

(2) ボランティアとNPOに関する啓発・普及事業

①『とちコミSDGs通信』『フードバンク通信』『県北通信』の発行

2021年1・2月号から、誌名を『とちコミ・SDGs通信』と変更し紙面の内容を大幅変更した。とちぎコミ

ユニティ基金とSDGsを中心にした紙媒体を「特出し」することで、情報誌購読だけの会員増加を狙った。いわばVネットのプラットフォームに「SDGs通信の会員」が乗ったものである。年6回、毎回1000部発行しSDGs関連企業160社にも送付した。

他に、2019年1月から『**フードバンク通信**』を発行した。これは「今月のSOS」記事を4ページを別刷りにしたもので、編集は本会職員が行い発行は「FBうつのみや」とし、FBうつのみやの機関紙とともに同封することで、FB会員に対しFB以外にも大きな広がりを感じられるような情報提供をしていく

また、2020年1月からは『**県北Vネット通信**』を創刊。県北のフードバンクのSOS事例を掲載した4ページ通信を発刊した。これらの措置により「とちコミSDGs通信」のプラットフォームとしての価値を見せていく。

さらに、**ラジオ、youtube、WEB、SNSと紙媒体**とを連動して広報力を強化している。職員、学生ラジオパーソナリティ、新聞切抜き隊、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。

【とちぎコミュニティ基金・SDGs通信】

月	号	特集記事	月	号	特集記事
3-4月	247	特集/とちコミとSDGs	9-10月	250	特集/SDGs 3「すべての人に健康と医療を」/外国人医療の大問題
5-6月	248	特集/SDGs 1「貧困をなくそう」/子どもSUNSUNプロジェクト	11-12月	251	特集/SDGs 4「質の高い教育をみんなに」/生きるための学び・とちぎ自主夜間中学
7-8月	249	特集/SDGs 2「飢餓をゼロに」/アジア学院ルポ/ベジファーム・インタビュー	1-2月	252	特集/SDGs 5「ジェンダー平等を実現しよう」/栃木県女性議員連盟アンケート&Vネット女子座談会

②「みんながけっぶちラジオ」の放送/動画

ラジオ局の運営を、コミュニティFM「ミヤラジ」の開局と同時に2017年3月から開始した。ラジオ学生がゲストに話を聞き、職員等がコメントするスタイルである。取材・放送・ブログ作成までを学生が臨時職員（アルバイト）として担当した。今期は学生4人（田中悠斗、佐藤里奈、小浜佳凜、櫻井脩弥）、社会人1人（伊東由晃）となり、前年のラジオ学生もラジオ学生会議などでサポートに入る体制にした。年末に「**学生ラジオ・募集説明会**」を実施し、1月からは学生5人（佐藤優、鈴木花梨、矢島彩香、氏家綺莉、中島桃也）で実施している。

番組を**youtube動画**で再録し**ラジオ番組をホームページで毎回公開**することにした。また「**次世代に伝える。原発避難10年目ラジオ**」を毎月第2日曜、11時から放送した。3月には特番として3時間の放送をした。**福島県の委託事業**の予算で実施した。(⇒P9)

「半径8キロしか聞こえない」コミュニティFMは、放送の広報（ラジオ聴取）力はあまりないが、媒体作成・媒体出演者との関係性に学生が関わることで、動画配信などの新しい活動や、学生自身の成長と本会関係者の変化がある。さらに学生チーム・Vレンジャーや、FBボランティアとの相乗効果により、かかわる学生数が10人以上となっている。学生にもNPOにも有意義な出会いとなった。

【みんながけっぶちラジオ 番組表】

回	月日	テーマ	ゲスト/所属	コメント、学生会
1	4/6	まちの保健室	岡田ケイ/地域包括支援センターきよすみ	徳山、伊東
2	4/13	地方教育を創造するフリースクール	磯翔/アップルバウム	中野、佐藤
3	4/21	医療的ケア	佐藤英治/うりずん	矢野、小浜
4	4/28	子どもへの虐待を無くしたい	畠山由美/だいじょうぶ	矢野、田中
5	5/4	視覚障害者の作業所	佐久間佳子/とちぎライトセンター	徳山、小浜
6	5/11	鹿沼の子ども食堂	加藤美智子/子ども食堂ネットワークかぬま	中野、田中
7	5/18	ダルク NA ミーティング	栃原晋太郎/ダルク	矢野、伊東
8	5/25	認知症への理解を深める	金澤林コ/認知症家族の会	矢野、佐藤
9	6/1	就労支援センター	富沢浩巳/風の丘	中野、伊東
10	6/8	不登校支援と私	吉成/ウエーブ	徳山、田中
11	6/15	外国人の医療	荻津守/宇都宮乳児院	矢野、小浜
12	6/22	高齢化と人口の減少が進む里山	塚本竜也/トチギ環境未来基地	矢野、佐藤
13	6/29	コロナ何でも質問	趙達来/真岡西部クリニック	田中、小浜
14	7/6	若者の仕事づくり	/野州麻	中野、小浜
15	7/13	フードバンクをやってみて	高沢/フードバンクあしかが	徳山、佐藤
16	7/20	星中制服リサイクルバンク	印南弘美/制服バンク	矢野、櫻井

17	7/27	高齢者のアクティブ・ライフ	高倉/NARC栃木	矢野、田中
18	8/3	関係性の貧困	吉川未知/ふらっと☆たからぎ	中野、伊東
19	8/10	チャリティウォーク	高田誠/チャリティウォーク	徳山、田中
20	8/17	困窮者相談支援	小澤勇治/フードバンクうつのみや	矢野、小浜
21	8/24	昭和こども食堂	荻野友香里/キッズハウスいろどり	矢野、佐藤
22	8/31	学生の活動家：地域おこし	枝拓未/中之条町地域おこし協力隊	櫻井、中島V
23	9/7	生きる力を養う塾	市川潤子/自立塾	中野、小浜
24	9/14	不登校児のための居場所	芳村/ひよこの家	徳山、佐藤
25	9/21	Vレンジャーradio：居場所づくり	矢橋和樹/NPOインターン・緑のふるさと協力隊	田中、芳賀V
26	9/28	LGBT多様な性を考える大学サークル	王/にじみや	矢野、櫻井
27	10/5	社会的処方	千嶋巖/宇都宮医師会	中野、佐藤
28	10/12	若者支援	湯本/若者サポートステーション	徳山、田中
29	10/19	アートは行為を通じて心の中を開く作業	林香君/クリエイティブ・レインボーPJ	矢野、櫻井
30	10/26	コロナ禍のボランティア 挑戦して得たもの	古谷真菜/とちぎYMCAボランティア	田中、高橋V
31	11/2	街中の身近な保健室	渡邊カヨ子/NPO法人みんなの保健室	徳山、櫻井
32	11/9	VレンジャーRadio：台湾の子供の貧困	佐藤綾香/宇大4年生	中野、田中
33	11/16	サンタ de ラン	塩澤達俊/とちぎYMCA	矢野、小浜
34	11/23	毎日通う通信制高校/日々輝学園	山本明子/日々輝学宇都宮キャンパス長	矢野、田中
35	11/30	Vレンジャーradio：建築学生団体 UUAD	寺澤基輝/宇都宮大学	佐藤、廣居V
36	12/7	フードバンクのインターン生	伊藤和樹、寺田啓人/宇都宮大学生	伊東、櫻井
37	12/14	制服リサイクル会社	皆川/学生服リユースShopさくらや	中野、田中
38	12/21	多胎児の子育て支援	鳥飼蓬子/そらいろコアラ、さくらんぼ小山会	櫻井、山本V
39	12/28	1年のふりかえり	—	曾根、田中、小浜
40	1/4	新春：とちぎVネットについて	矢野正広/とちぎボランティアネットワーク	宮坂、鈴木
41	1/11	フィリピンに歯ブラシと歯科医療を	関口敬人/NGOハローアルソンPJ	徳山、氏家、小浜
42	1/18	Vレンジャーradio：実験教室	斎藤すみれ/実験教室	櫻井、伏本V
43	1/25	青年協力隊&子どもの居場所	熊倉百合子/青年海外協力隊	矢野、中島、田中
44	2/1	「協同労働」多様な働き方	小白井加代子/ワーカーズコープ	徳山、鈴木
45	2/8	自然の中の教育フリースクールはらっぱ	三厨由美/NPO法人みんなのカタチ	中野、矢島
46	2/15	キャンプとボーイスカウト	戸部康彦/ボーイスカウト宇都宮第1団	矢野、中島
47	2/22	ボランティアによる学校 自主夜間中学	大橋衛/とちぎ自主夜間中学・副校長	矢野、矢島
48	3/1	フードバンクを応援する新聞店	宇賀神新聞店	徳山、氏家
49	3/8	空と森のようちえん・あいうえお	栗田/NPO法人みんなのカタチ	中野、矢島
50	3/15	高校生活活動家	菊地奏汰/黒磯高校	矢野、氏家
51	3/22	キャンプとYMCA	とちぎYMCA/小野紀夫	矢野、中島
52	3/29	VレンジャーR：しもつけ自然のアルバム	菊地真以、嶋崎春奈、麦倉悠斗/インターン生	宮坂、矢島

(3) 震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟・運営 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク (略称=震つな)」へ加盟し、役職員を同ネットワークの顧問・理事として業務にあたらせた。今期は2回の研修会の講師を引き受けた。

また3年前から全国災害ボランティア支援連絡会 (JVOAD) にも加盟した。

(4) ボランティア推進団体会議(民ボラ)の運営 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

全国の市民活動やボランティア活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う「第38回ボランティア推進団体会議 (民ボラ)」を7月に大阪で実施した。

E. 【とちぎコミュニティ基金】

（トピック）今期、とちぎコミュニティ基金で配分した**助成総額は 5,770 万円**になった（うち休眠預金事業が 1985 万円）。他にそのほか 47 コロナ基金の 500 万円が大きかった。また、合同ファンドレイジングはこれまで 2 プログラムであったが、チャリティワークを主宰することで 3 つのプログラムとなった。**休眠預金の実施**で、県内 NPO からは**とちコミへの注目度があがった**。

【コロナ】2020 年 5 月から**合同ファンドレイジング「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」**を実施し今期末（2 年間）で終了した。寄付金は 2 年間で **8,859,851 円(287 件)**となり **14 団体**に配分した。同時に全国コミュニティ財団協会の枠組みで **47 コロナ基金（一般助成）**で **190,150 円**を、本会のコロナ募金と連動して 5 団体に配分した。さらに「**47 コロナ基金（医療助成）**」を非公開・推薦方式で **7 件の医療機関**に対し**総額 450 万円**を配分した。

【緊急支援募金】では、7 月の**佐賀水害**について募金活動を行い **221,400 円**を佐賀県武雄市の NPO おもやいボランティアセンターに助成した。3 月には**ウクライナ難民支援**の募金活動を行い**約 128 万円**（4/25 現在）が集まっている。

また、**サンタ de クリーン&ウォーク**では**過去最高額の寄付 577 万円**が集まった。子どもの貧困の周知を図るため、高校生や大学生のボランティアが「**子どもの貧困特別授業**」と題し、14 の寄付先団体取材した動画を作成した。

（実績概要）

とちぎコミュニティ基金（以下とちコミ）は大きく「**プロジェクト**」「**助成**」「**合同ファンドレイジング**」の**3 部門**がある。今期はプロジェクトは進まなかったが、合同ファンドレイジング（コロナ支え合い募金、サンタ de クリーン&E スポーツ）が活発になった。

昨年度から継続している**がんばろう栃木・コロナ支え合い募金**は NPO の 13 事業でキャンペーンを呼びかけ、3 月末まで寄付を集めた。**寄付総額は 885 万円**になり 3~5 か月ごとに寄付分配を行った。

子ども SUNSUN プロジェクトは **230 万円**の寄付があり、うち、サンタ de ランを「**クリーン&ウォーク**」と企画内容を変えて実施し、**577 万円**を合同ファンドレイジングで集めた。助成部門の「**たかはら子ども未来基金**」は学生インターン助成として **10 人の大学生と 8 団体**に助成した

ゆめ基金では、新たに **3 年継続の調査助成「ゆめ・SDG s 助成」**を創設し、3 プログラムに**総額 45 万円**を配分した。

5 つの助成の合同活動報告会として、3 月にオンラインで「**とちぎのミライをつくる大会**」を実施した。延べ 41 団体の報告と交流会を行った。県内外の NPO 関係者を中心に約 90 人が参加した。

（1）プロジェクト（NPO の活動資金の援助事業）

①子ども SUNSUN プロジェクト=子どもの貧困撃退円卓会議(宇都宮)

経緯（2017 年）

2017 年 3 月から地域の課題を解決するプロジェクトとして「**子どもの貧困**」をテーマに円卓会議を開催し、2017 年 10 月に調査報告、2018 年 3 月に実施計画を発表した。

（2018 年）

目標数の設定と資源集め事業の立ち上げを行った。宇都宮市内の各中学校区にこども食堂、無料学習支援、居場所、フードバンクの支援拠点セットをつくることを目標とした。そのために宇都宮の概ね中学校区ごとに**地区円卓会議**を開催する計画とした。また、全体の課題を解決する場として定期円卓会議を年 4 回開催。9 月には**清原地区子どもの貧困撃退・円卓会議**が発足し、とちぎ YMC A を中心に、地区内の社会福祉施設、自治会、民生委員児童委員等とともに地域ぐるみの活動になった。また 2018 年度は市外への波及として**大田原子どもの貧困撃退円卓会議**を開催し、調査やファンドレイジング講座を開催した。ファンドレイジングとして、サンタ de ラン&ウォークや通年の子ども SUNSUN メイト(月額寄付)で**総額 846 万円**を集めた。

(2019年)

5月に総会を実施した。助成金申請書/ファンドレイジング計画書の公募を行った。定期円卓会議は8/18「子ども食堂をもっと増やすには」のテーマでワークショップを実施し20人が参加した。地区円卓会議として、清原地区円卓会議では子ども食堂キャラバンを開始し、9月には「子ども食堂チャリティコンサート」を地区で実施し100万円の寄付を集めた。宝木地区でも宝木こども未来応援隊が医療生協、村井クリニック、老人ホームの連携で発足し、元デーサービス施設で子ども食堂が定期的に開催されるようになった。寄付は総額550万円を集めた。

(2020年)

コロナ禍のため5月に緊急オンライン会議を実施し活動を協議した。総会と定期円卓会議(1回)を中止し2019年度分助成金92万円を次期(2021)に配分することにした。定期円卓会議は2回実施した。12月「コロナ禍での子ども食堂の再開」をリアルとZOOMで実施。2022年3月は「にほんで生きる海外につながる子どもたち」をテーマにZOOMで開催した。

また12月のサンタdeランは「ラン」を取りやめ、サンタdeクリーン大作成&eスポーツとして、リアルとオンラインの企画とした。今期は例年になく動画での宣伝や、学生・高校生のボランティアによる寄付集めも行われ、550万円を集めて13団体に分配した。個人・企業からの都度寄付などで子どもSUNSUNプロジェクトの寄付総額は886万円となった。

子ども食堂はコロナ禍での弁当配布になった所が多かった。一方で新たに臨時的食堂を行う所もあり宇都宮市内では2か所増。本会関係では2021年2月から市内中心部で宮っ子元気食堂が理事2人の尽力により開設した。毎月2回の弁当の提供だが、待っている母子家庭等も多数ある。

無料学習支援の増加はなく、訪問型病児保育はコロナ禍で活動ができず休止状態となった。

また、9月から市の「親と子の居場所」事業が2か所開設した。今後、中学校区に1か所開設する方向とのことで、この事業の市内への普及とネットワーク化を検討する。フードバンクはコロナ禍であったため、注目度が高まり食品受贈量も拡大し活発に運営している。

(2021年)

・7月にオンライン+対面での総会を実施した。9月には子どもSUNSUNプロジェクト助成金を公募選考し7団体に110万円を配分した。定期円卓会議は10月(親と子の居場所事業)と3月(外国ルーツの子どもの貧困調査報告)の2回実施した。サンタdeランの他には新規の活動は行わず、今期は「調査を行う時期」として、外国ルーツの子どもの貧困について「夢SDGs助成」の調査助成を活用して調査を行い3月の定期円卓会議で内容を公開した。また、子どもSUNSUNプロジェクトは那須塩原市にも波及し、夢SDGs助成により那須塩原子どもの貧困撃退円卓会議が立ち上がり調査を行っている。

・12月のサンタdeクリーン&ウォークでは高校生・大学生の若者の活躍により、寄付は過去最高額の577万円となった。

年度末の2月から、次期(2022)4/10の子ども食堂応援イベント「こども食堂はみんなの居場所キャンペーン2022」の準備をし、今期4/10に実施した。これは、宇都宮市内の音楽グループのイベントに相乗りしたもので、サンタdeランのイベントとあわせると半期に1回のファンドレイジングイベントができることになった。

①総会、定期円卓会議、月例会

7月10日に2年ぶりに子どもSUNSUNプロジェクトの総会を開催した。対面とオンラインのハイブリッド方式で25人が参加した。SUNSUNプロジェクト助成金の応募要項を公開した。

2回の定期円卓会議を行った。①11月13日、宇都宮市の委託事業「親と子の居場所事業」について受託した2団体(キッズハウスいろどり、ふらっと☆たからぎ)から13か月めの報告として成果を課題の整理をした。オンライン方式で実施し約20人が参加した。②3月22日に「外国ルーツの子どもの貧困調査報告会」をおこなった。オンライン方式で実施し約25人が参加した。

月例会は5月(2回)、6月(3回)9月、12月、2月(2回)3月に実施した。毎月定例で実施することができず、結果的には

子どもSUNSUN助成金(19-20年度)	
1 宇都宮市学童保育センター	100,000円
2 NPO法人シェアハッピーエール	100,000円
3 NPO法人蔵の街たんぼぼの会	200,000円
4 子どもの未来応援隊	200,000円
5 そらいろコアラ	200,000円
6 ちゅんちゅんこども食堂すずめのす	200,000円
7 宮っこ元気食堂	100,000円
合計	1,100,000円

隔月となった。しかし複数回は総会や定期円卓会議、4/10「子供食堂応援イベント」開催のための打合せ会議があった。このほかに8月～12月にはサンタ de ランの会議が複数回行われ、11月は助成金審査の打合せの会議があるなどで月例会を開く余裕がなかった。

②子どもSUNSUNプロジェクト助成金

子供食堂などの設立・運営支援のための助成プログラムを改変して募集要項を作成、7月に公募開始、11月に審査会と配分を行った。7団体に総額110万円を配分した。2019・2020年度の2年間の寄付金がコロナ禍で配分できず、2018年度の第1回配分に続き2回めの配分となった。

③「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン2022」の準備

2022年1月末に「音楽イベントと子ども食堂のコラボ企画」が外部から寄せられた。月例会での検討後、次期4月10日に「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン2022」を実施することになった。正味2か月の間に、3回の打合せ会議、パートごとに複数回の打合せ・調整を行った。(4/10既に実施済み。参加約200人の盛況なイベントとなった)

「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン2022」趣意書 (2022/4/10実施)	
<p>1、目的：</p> <p>①地域の人が支え・集える「みんなの子ども食堂」であることを周知し、困窮家庭の子どもも普通の家庭の子どもも皆が使える場としての子供食堂であることを広める。</p> <p>②子ども食堂の数を少なくとも各小学校区に1つ以上に増やしていく。また、ボランティアと寄付で運営されていることを伝え、人とお金の募集を行い「支える人」を増やして運営を安定させる。</p> <p>2、実施内容：</p> <p>①4/10のオリオンスクエアを会場としたイベント</p> <p>●ステージ：七瀬みなみのコンサート、OGサウンズの演奏 など</p> <p>●フードドライブ（食品受贈）の受付、出張子ども食堂、寄付金の受付 ●子ども食堂サミット</p> <p>②4/10までの活動：「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン」</p> <p>…「宇都宮市内の全小・中学校区に1つの子供食堂を作る」を目的とすると87か所となり、推計で約17億4000万円が運営資金として必要となるが、宇都宮の人口（52万人）で割ると一人335円となる。「1人335円で子ども食堂が100か所できる」等を合言葉に子ども食堂の理解と支援を求める。</p> <p>○方法1：1人400円を寄付いただく。(封筒を配布。細かいお金だと両替経費がかかるので、大人は2・5人分1000円等)</p>	<p>○方法2：子ども食堂への食品の寄贈を求める。しかし、子ども食堂は食品倉庫がないので、フードバンクと提携して貯蔵性のある食品予め指定して、持ってきてもらう。受付会場はオリオンスクエアだけでなく、各地の子ども食堂や、協力企業、事業所など（封筒寄付も受け付ける）</p> <p>○方法3：動画、チラシ等でのキャンペーン広報。学生・高校生チームによる動画コンテンツ制作とSNSによる広報。「子ども食堂はみんなの居場所」についての内容であれば自由に制作してもらい、方法1、2についてチャレンジする内容がベスト。</p> <p>3、日時・場所：4/10、11：00-14：00 宇都宮市オリオンスクエア</p> <p>4、主催：とちぎコミュニティ基金（子どもSUNSUNプロジェクト）</p> <p>5、目標：寄付300万円、ボランティア100人、食品受付件数500件 生活用品・学用品100件</p> <p>6、寄付金の使途：①新規子ども食堂のオープンの助成金（公募での「子どもSUNSUN助成金」）②既存の子ども食堂・フードバンク等の運営費補助（食材費など）</p> <p>7、寄付金の振込先 (省略)</p> <p>8、問い合わせ (省略)</p>

②「サンタ de クリーン&ウォーク」の実施

6回目のサンタ de ラン&ウォークは、昨年度に引き続き、飛沫が広がる懸念からラン企画を中止し「クリーン&ウォーク」と形を変えて開催した。当日は約 250 人が集まった。実行委員会は4月～1月の10か月間、16回実施した。また、今回は高校生や大学生など若者の動きが活発化した。

●大学生・とちぎ YMCA 高校生ボランティアチームつぼみ・日々輝学園の高校生らが「子どもの貧困特別授業」PR 動画作成

●日々輝学園高校のパソコン部制作オリジナルゲームでの協賛金の集め

●イベント当日、若者中心に7チーム参加

ボランティアに参加した高校生の中には「イベントをきっかけに子どもの貧困について考えるようになった」との言葉もあり、協力と感心の輪が広がった。イベント当日は、会場付近を通行する人や地元の人たちに向けても支援をよびかけ、大きなインパクトを与えるものとなった。

預かり寄付渡先	2021		2020	
	集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額
とちぎVネット	1,089,972	1,171,067	802,155	838,243
子どものみらい応援隊	240,000	257,856	150,254	157,014
だいじょうぶ	674,297	724,465	621,402	649,358
とちぎYMCA	356,745	383,287	523,912	547,482
トチギ環境未来基地	71,000	76,282	237,200	247,871
うりずん	335,926	360,919	282,137	294,830
フードバンクうつのみや	552,964	594,105	262,646	274,462
青少年の自立を支える会	20,000	21,488	31,500	32,917
きよはら食堂キャラバン	69,000	74,134	595,000	621,769
ちゅんちゅんこども食堂	220,000	236,368	30,000	31,350
県北子ども食堂連絡協議会	-	-	97,335	101,714
えんがお	26,322	28,280	-	-
宮っこ元気食堂	192,729	207,068	-	-
たんぼぼの会	102,220	109,825	-	-
やぎハウス	77,163	82,904	-	-
計	4,028,338	4,328,049	3,973,541	4,152,308
全体に寄付	1,742,394	-	1,562,869	-
とちコミ経費	-	1,442,683	-	1,384,103
	5,770,732	5,770,732	5,536,410	5,536,411
①集めた金額⇒団体指定の寄付				
②配分→支払額⇒75%分+「全体に寄付」を按分した配分				
①と②の総計は、按分の計算後、割り切れない数字があるので、ずれています。				

<p>■サンタ・事前イベント (11回)</p> <p>●街頭募金 5回</p> <p>11/26 実行委員企画「サンタ de 街頭募金」53,809円</p> <p>12/4 実行委員企画「サンタ de 街頭募金」57,149円</p> <p>12/5 実行委員企画「サンタ de 街頭募金」84,820円</p> <p>12/12 県北実行委員企画「サンタ de 街頭募金」35,522円</p> <p>12/25 県北Vネット企画「サンタ de 街頭募金」円</p> <p>●10月末～ オリジナルゲーム「サンタ de ラン」(日々輝学園高校パソコン部)</p> <p>協賛：株式会社 adtown、アカデミックロード、共栄、柏建設、うりずん、ひばりクリニック、病児保育かいつぶり、東洋測量設計株式会社、RGP、あおぞら福祉カレッジ</p>	<p>●サンタ de ラン PR「子どもの貧困特別授業」Youtube 動画 35 本 再生回数 計約 1374 回</p> <p>●シャケ募金、Bo 金魚 (回遊型募金箱) 約 20 個作成・寄付約 7 万円</p> <p>●ポスター張り (3回) 11/9 (14人)、11/14 (20人)、11/19 (11人)</p> <p>■当日ボランティア説明会 (2回) 12/4 (15人)、12/8 (9人)</p> <p>■実行委員会 (16回)</p> <p>3/25 (14人)、4/15 (16人)、5/14 (23人)、6/9 (22人)、6/25 (15人)、7/15 (18人)、8/4 (12人)、8/26 (17人)、9/16 (16人)、10/14 (18人)、10/27 (12人)、11/10 (13人)、11/25 (13人)、12/2 (14人)、12/16 (19人)、1/19 (12人)</p>
---	--

(2)助成 (NPOの活動資金の援助事業)

①「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」

花王(株)の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る地域助成を行なった。第15回目の助成金配分である。助成金

額は20万円1団体、10万円4団体の60万円である（2019年度助成団体がコロナ禍の影響で活動ができず、返金された10万円分を追加で助成した）。審査は12月14日の第1次審査で4団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により1番票を集めた団体に20万円を助成することとした。**応募は17団体**だった。3月6日に贈呈式を実施し、前期（2020年）の助成団体の報告会も合わせて実施した。

2021年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成（栃木地区） —栃木県内のNPO・市民活動団体を応援—	
花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域のNPOを社員と企業で応援しています。今年、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するNPOや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。	
1、助成内容 助成内容 ・助成総額：60万円 ・助成団体数：5団体 ・助成金額 ・助成：20万円＝1団体、10万円＝4団体 2、選考までの流れ ◎応募受付開始：10月1日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着 ◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティ基金運営委員会により6団体を選出。 ◎二次選考（投票選考）：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。 ◎贈呈式・レセプション：3月6日。1次審査通過団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。 ◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔に報告ください。 3、応募団体の条件 ①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体（法人格の有無は問わない）	◎昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと（1年休み後の応募は可）。 ※「NPO データバンク（CANPAN）」への登録は必須ではありません。 4、応募・問い合わせ先 とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」 栃木県宇都宮市埴田 2-5-1 電話 028-622-0021 FAX028-623-6036 tochicommi.org ■選考結果 ★20万円 みんなの学び場おやま ★10万円 もおか環境パートナーシップ会議 NPO法人みんなのカタチ 子育てほっとネット NPO法人子どものとなり佐野 ■年間日程 10/8(金) 助成金の説明会（まちびあ・ぼぼら主催） 12/14(火) 花王助成審査会 3/6(土) とちぎのミライをつくる大会（2020年度花王助成報告会と、2021年度助成贈呈式）

②「たかはら子ども未来基金」

2017年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、学生インターン助成を実施した。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的である。子どもの貧困に関するボランティア・NPOの活動に対し、栃木県北地域を中心に助成を行った（2017年から2027年までの10年間継続して寄付を受け、助成を行う予定）。

学生インターン部門には16団体の応募があり8団体に助成した。学生は20人の申込があり10人に助成した。なお、今年は2団体（足尾に緑を育てる会、うりずん）が特別助成枠で2人を受け入れた。

とちぎコミュニティ基金 [たかはら子ども未来基金]・学生インターン助成 (申込締切) 団体：2021/6/14、学生：2021/7/12
1、たかはら子ども未来基金とは？ 子どもや若者の未来を応援する目的で、2017年に矢板市在住の夫妻が設立した基金です。現在、家庭の経済的困窮が要因となり、子どもや若者の「未来への可能性」を奪う様々な不利が生じています。境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られるように「たかはら子ども未来基金」が創設され、特に栃木県北地域の子どもや若者を支えていくことを目指します。
2、2021年度の助成事業（学生インターン助成） 若者とNPOが共に成長できることを目的としています。学生が一定期間、NPOや市民活動団体にスタッフ見習いとして研修（インターンシップ）することを応援します。奨励金で学生が一定期間、活動することで若者の積極的な参加を促し、若者の継続的な応援者を増やします。学生の中には奨学金を借り、アルバイトのために、ボランティアができない人もいます。NPOには学生の受入れで、日常業務の補助だけでなく、特に事業の発展や新規事業の立ち上げを行える団体に助成します。
3、対象団体 ①子どもの食事と居場所を支える活動をする団体。例)こども食堂の運営支援、新規設立支援。②子どもの学習を支える活動をする団体。例)無料学習支援、学びなおしの支援。学用品の物品支援など。③子どもの体験を支える活動をする団体。例)自然体験や文化体験などの子どもの心の成長を支える活動を支援。④若者の社会参加や就労、生活を支える活動をする団体 ⑤例)若者の居場所づくりや就労訓練プログラムを支える活動を支援。困窮学生支援。⑥その他、子どもや若者の未来をつくる活動を支える団体。例)環境分野の団体で、子どもへの自然体験活動を行っている団体、国際協力分野の団体だが、若者の国際交流活動を行っている団体など。
(1)助成する団体の条件 ■ 営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行う栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない) ■ 県南をのぞく、栃木県内全域を対象とし、特に県北の活動団体を優先して助成します。 ■ 対象市町：矢板、塩谷、高根沢、さくら、大田原、那須塩原、那須、那珂川、那須烏山、宇都宮、上三川、壬生、日光、鹿沼、芳賀、市貝、益子、茂木、真岡。(事務所があるか、活動している団体)

(2) 選考基準

前出の条件を満たす団体の中から、以下の選考基準で選考します。

1. 子どもや若者の未来の可能性を本気で応援したい団体
2. 地域で必要とされ一般の人に開かれて、参加できる活動
3. 助成を受けることで、活動の基盤を強化できる団体
4. 学生のインターンシップを受け入れる体制が整っている団体（学生が相談できる職員がおり、活動の計画、実施、振り返り、改善をともにやること）
5. 学生と一緒に、既存事業の発展や新規事業の立上げを行える団体

4. 学生インターンの内容

- ・学生受入希望の団体と、NPO 活動に関心の高い学生をマッチング。
《助成額》8月～2月のうちの12日以上インターンシップ活動に対し、学生60,000円、団体40,000円を助成します。
- ・助成総額：900,000円（最大でインターン生9人分と団体9団体分）
- *1団体に2人以上の受入れてもらうこともあります。

①第一次審査（団体審査）：選考基準を満たしている団体には、最大9団体に、結果通知をお送りします。

②二次審査（学生審査）：選考基準を満たす学生はマッチングに進みます。

③マッチング手順

A：1人の学生が団体を希望。他に希望する学生がいない場合⇒成立。

B：1団体に複数の学生が希望している場合⇒団体と協議し決定。

C：希望の団体なかった場合⇒不成立。

④助成限度の9人のマッチング成立した場合、審査後、最終結果を通知します。

*特別追加枠について…マッチングの時点で、団体への希望学生が多い場合には、団体が資金を用意すれば、学生にインターンシップに参加してもらえる「追加の枠組」です。オリエンテーションや振り返り会など、同じ枠組みで行います。（想定される例）→学生2人が団体Aにインターンを希望し、1人は助成金が通った場合、もう1人は特別追加枠として、参加。

5. 新型コロナウイルスの対策についてのお願い

- ・新型コロナウイルスの感染防止のために、咳エチケット、消毒、換気、検温などの対策を行い、活動してください。
- ・インターン期間中に栃木県で緊急事態宣言が出た場合、インターンの実施について全部の団体ととちぎコミュニティ基金で打合せをし、実施の継続について決めることがあります。
- ・団体内でコロナウイルス感染者が出た場合、学生のインターンシップを一旦中止し、必ずとちぎコミュニティ基金に相談してください。

■選考結果

- ・坂田亜美（国際医療福祉大学）：キーデザイン（宇都宮）
- ・吉永育未（宇都宮大学）：宇都宮市学童保育センター（宇都宮）
- ・金子葉南（白鷗大学）：学びステーション鹿沼（鹿沼）
- ・矢橋和樹（日本大学）：風車（矢板）
- ・新山莉里加（宇都宮大学）：足尾に緑を育てる会（日光）
- ・相馬希咲（関東学院大学）：和音いのくら児童クラブ
- ・古谷真菜（宇都宮大学）：足尾に緑を育てる会（日光）
- ・久保大樹（宇都宮共和大学）：うりずん（宇都宮）
- ・石川美都（宇都宮共和大学）：うりずん（宇都宮）
- ・白石萌々香（宇都宮大学）：こども食堂ノエル（宇都宮）

■年間日程

- 5/15-6/14 団体の応募期間
- 5/15-7/12 学生の応募期間
- 6/23 団体審査
- 7/15 団体へマッチング通知発送
- 7/31 最終結果通知発送
- 8/20 贈呈式・オリエンテーション
- 8/21～2/28 インターンシップ期間
- 10/7 学生交流会①
- 12/1 学生交流会②
- 12/20 学生交流会③（NPO インターンシップラボ合同）
- 3/6 とちぎのミライをつくる大会（報告会）
- 3/16 学生振り返り会
- 3/18 受入団体振り返り会

③「とちぎゆめ基金助成」「ゆめSDGs助成」

今期は、募集は行わなかった。3年間の継続助成の1年目であり調査助成を行っている。

2020とちぎゆめ基金 「持続可能な地域づくり・SDGs助成」締切 12/25

1. 主旨

この助成は、持続可能な地域社会を作るために、複数の主体が参加して協働する地域課題解決の調査や実施に対して助成を行います。（1年目は調査助成のみ）

国連が決めた「持続可能な社会づくりのための17のゴール（SDGs）」達成は、2030年。複数の目標を地域のみんなで取り組む協働事業の設計（調査）と実施（継続するための仕掛けづくり）のスタートを支援します。みんなで10年取り組めば、地域の課題が解決していく。みなさんの取り組みが他地域へ波及し、持続可能な社会へ変わるきっかけとなることを期待しています。

<p>2、対象となる事業・条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～5団体以上の協働での応募であること。 ・持続可能な地域社会づくりの企てで、調査、人材育成、「継続する仕組み作り」に取り組む内容であること。 <p>3、伴走支援：必要に応じてとちぎコミュニティ基金が伴走支援をします。</p> <p>4、助成期間：2020年4月1日～2021年3月31日</p> <p>5、助成金額・件数：総額50万円</p> <p>(1)調査助成：1事業10～15万円×3団体程度</p> <p>(2)継続するための仕掛けづくり助成(2年目以降)：10～20万円×2団体程度</p> <p>※今年度は(1)調査助成のみ募集</p> <p>6、報告書・成果物</p> <p>調査助成の場合には、報告書等の成果物、イベント等の開催実績報告書が必要です。</p>	<p>7、応募について</p> <p>(1)応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（※営利/非営利、法人格不問）</p> <p>(2)応募方法：①応募申請書(所定の様式)に必要事項を記入の上、郵送かメール。②応募要項・応募申請書はホームページからダウンロード</p> <p>(3)締切：2019年12月25日(水)</p> <p>(4)選考方法と選考基準</p> <p>①とちぎゆめ基金・運営委員等からなる選考委員会で決定します。</p> <p>②複数団体による応募を優先します</p> <p>③地域・地方の複数の課題について、多様な主体が協働して課題解決するとともに、地域社会(全体)の持続可能性(SDGs)への促しを進めるもの。</p> <p>④広義の福祉を中心とした応募を優先します。</p> <p>⑤波及効果があるもの、他地域、後続団体が真似していただけるもの。</p> <p>⑥選考結果の発表：2020年1月末、文書で連絡。</p>
---	--

④「がんばろう栃木！募金」台風19号復興ボランティア支援

今年は助成を実施しなかった。助成プログラムを検討中である。

⑤佐賀水害支援募金

7月に九州の佐賀県であった水害に対し募金活動をおこない、**230,400円**を武雄市の災害救援活動を行う**NPO おもやいボランティアセンター**に助成した。佐賀県は3年前の水害でも被災し、その復興途中で再度被災している。遠隔地であり直接の救援活動ができないので寄付を贈ることにした。

⑥ウクライナ難民支援募金

2月24日に起こったロシアのウクライナ侵攻で発生した難民救援の募金活動を開始した。**約128万円(4/25現在)**の寄付となっている。集まった寄付金は**日本YMCA同盟**を通じてヨーロッパのYMCA同盟経由で各国のYMCAの救援活動に使われる。ウクライナ難民は現在500万人になっている。

(3)合同ファンドレイジング(NPOの活動資金の援助事業)

①「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」

コロナ禍における子ども・家庭を応援する市民団体の支援を強化するために、合同寄付キャンペーンを5月から開始し、13のプログラムへの寄付を募集した(期間は2022年3月末)。現在**8,859,851円(287件)**の寄付があり、3～5か月ごとに寄付の配分をした。

また、全国のコミュニティ財団と連携して開設した「**47コロナ基金**」では全国からの寄付を栃木分助成として、**一般助成190,150円を4団体、医療助成450万円**の募金を7団体に配分した。なお医療助成は本会の調査に基づいて非公募・推薦方式で配分を決定した。

「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」応募要項(2020・5月～2022年3月)		
<p>栃木でがんばるNPOなどの「コロナ対策プログラム」を募集しています。一緒にプログラムを創り、育てましょう。目標プログラム数は30個！とちぎ特設ページで、一緒に寄付を呼びかけて、この非常事態を乗り越えましょう！</p> <p>1、参加できる団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栃木県内で活動するNPOならどこでも。(法人格を問いません) ・たとえば、子どものオンライン学習を支える、耕作放棄地を使った体験活動、リフレッシュできる機会をつくる、食を支える などなど、この非常事態を乗り越えるいろいろなアイデアを募集します。 	<p>2、合同で寄付を呼びかけるメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定NPO法人への寄付となり、寄付した方が税制控除を受けられます。 ・一緒に呼びかけることで、より多くの人に活動を伝え、共感者を増やすきっかけになります。 <p>3、寄付の集め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付者が、応援したい団体を指定して寄付します。 ・寄付の申込みは、クレジットカードと郵便振替からとします。 ・集まった寄付からとちぎコミュニティ基金の事務局経費(20%)を引いた金額をすべて各団体にお届けします。 ・なるべく1団体125万円を目標として寄付を呼びかけてください。(100万円は団体に、25万円は事務局経費) 	
<p>■寄付総額(2022/3月末)8,859,851円(287人)</p> <p>N) だいじょうぶ 581,192円</p> <p>N) うりずん 574,792円</p> <p>N) トチギ環境未来基地 426,792円</p> <p>N) オオタカ保護基金「サシバの里自然学校」418,792円</p>	<p>一社) 栃木県若年者支援機構 433,192円</p> <p>N) チャレンジドコミュニティ 514,792円</p> <p>N) FB うつのみや 1,391,036円</p> <p>公財) とちぎYMCA 421,992円</p> <p>一社) えんがお 430,792円</p>	<p>N) キーデザイン 439,455円</p> <p>N) アニマルセラピー協会 361,855円</p> <p>N) そらいろコアラ 607,402円</p> <p>N) もうひとつの美術館 367,455円</p>

47 コロナ基金（一般助成）要項

全国運営：公益財団法人さなぶりファンド

<p>1. 目的 新型コロナウイルス禍により生活困窮や障害者、子ども、医療などで元々大変な人たちが「さらに苦境」に陥っています。制度の枠外で支えていた栃木の NPO も非常に苦しい状況です。この基金は、コロナの影響を受けても、活動をしていく NPO や市民活動団体の事業継続・変更・強化のためのプログラムに助成します。寄付集めをみんなで取り組むことで、栃木の元気を取り戻していくことを応援します。</p> <p>2. 対象となる事業・案件</p> <p>(1) 対象事業 下記の活動などに対して、助成します。 ・栃木県内の新型コロナウイルスの影響で生じた課題への取り組みであること 例) (栃木県内の子どものオンライン学習を支える、耕作放棄地を使った体験活動、リフレッシュできる機会をつくる、食を支える、コミュニティ形成、しごとづくり、農山村の定住支援、学生バイトのマッチング支援、医療支援 などに取り組む活動)</p> <p>(2) 対象となる経費 ・活動に必要な経費（人件費を含む） * 人件費は助成額の4割を上限とする。なお、営利事業の人件費は対象になりません。 * 物資支援は、食材等の提供、医療機関向けのみ認めます。 * 通信機器の貸出経費は認めますが、個人への寄贈は認めません。 * 特定の個人への現金の貸付、寄付は対象になりません。</p> <p>3. 助成期間 2021年4月1日～2022年6月31日 * 今回は基金立ち上げの時点から助成期間とします。すでに実施済みの活動への資金充当も可能です。</p> <p>4. 助成金額・件数 助成総額 15万円（最大4団体） * 今後も集まった募金額に応じ継続して募集を行うこともあります。</p> <p>5. 報告・成果 指定の様式による報告書をご提出していただきます。また、チラシや成果物などがありましたら、あわせてご提出をお願いします。</p>	<p>6. 応募について</p> <p>(1) 応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（個人での申請は不可） (2) 応募方法：指定の応募申請書に必要事項を記入の上、郵送かメールでお送り下さい。（一緒に提出いただく書類）前年度の事業報告書、役員名簿 (3) 助成金の使途の書き方について： ①項目→人件費、旅費交通費、印刷費、消耗品費、謝金* 営利組織の場合の人件費は対象になりません。 ②内訳→ 具体的な算出根拠を記入 例: 消毒液 50本×800円=40,000円) (4) 応募締切：申込があった時点で審査します。 (5) 選考方法と選考基準 ・書類及び必要に応じてヒアリングにより、「がんばろう栃木！コロナ支え合い基金」選考委員会で決定します。 (選考基準) ・公益の増進に資する事業であること ・新型コロナウイルスの影響で生じた課題への対処であること ・助成金の使途が適切であること ・波及効果があり、ほかの地域や後続団体のモデルとなる先駆的な取り組みであれば、なお良い</p> <p>7. 選考までの流れ</p> <p>・基金の振込・・・8月に振り込みます ・基金を使った事業実施期間・・・2022年3月31日まで ・活動報告の期限・・・2021年3月時点での活動報告 ・活動報告会・・・調整中</p> <p>8. 47 コロナ基金による寄付金分配について 47 コロナ基金とは、地域創造基金さなぶりが全国47都道府県のNPOを支援する基金です。全国コミュニティ財団協会と連携して、NPO、企業、医療者等への事業に助成を行うものです。コロナ支え合い基金とも連動しています。「47 コロナ基金」で栃木県に指定された寄付を、「がんばろう栃木！コロナ支え合い基金」の活動に上乗せして、助成することとします。</p>
--	---

■選考結果
N) キーデザイン 30,800円 N) アニマルセラピー協会 30,800円 N) そらいろコアラ 30,800円 N) もうひとつの美術館 30,800円

②サンタdeクリーン&ウォーク

前述（P14）の通り、子どもSUN SUNプロジェクトの一貫として合同ファンドレイジングを実施した。

③チャリティウォーク県北21、チャリティウォーク宇都宮22

県内のFB団体の合同ファンドレイジングとして今期からとちコミの主宰イベントとして実施した。

コロナ禍であり昨年同様の1日イベントを県北（10/2大田原・那珂川）、県央（10/9宇都宮）の2か所で開催した。寄付総額2,912,128円、寄付者334人（件）で、県北は参加者84人、ボランティア50人、宇都宮は参加者66人、ボランティア35人だった。

運営のために7月から実行委員会を組織し実行委員会・ボランティア説明会を5回実施した。

	団体名	寄付配分額
1	FB県北	1,338,267円
2	FBうつのみや	580,560円
3	FB日光	205,804円
4	FBもおか	31,935円
5	FBしもつけ	27,530円
9	経費25%	728,032円
	合計	2,912,128円

第10回チャリティウォーク [県北 21][宇都宮 22]

10/2 (土) 県北、10/9(土) 宇都宮

<p>1、目的・趣旨 フードバンク活動への資金造成（寄付）と理解促進のために1日1日帰りのチャリティイベントを実施する。寄付を集める時には困窮した状況にある人たちの現状や制度の限界を伝えることで、「私たち自身がセーフティネットを作っていく」必要性を理解し、またこうした仕組みの存在があることで「やりなおしがきく社会」をつくる希望となることを伝える。</p> <p>2、日時・場所 ①県北）2021年10月2日（土）・9時～16時頃（雨天実施） ・黒羽支所⇒那珂川水遊園⇒黒羽支所（片道10.5km。往路：川東側左岸、復路：川西側右岸） ②宇都宮）10月9日（土） ・宇都宮市中心部⇒大谷⇒多気山の不動尊（片道11km）⇒宇都宮市中心部 終点</p> <p>3、参加資格等 ●チャリティウォーク県北21 ●チャリティウォーク宇都宮22 ■参加できる人●（個人）：食品1kg以上の寄贈、と寄付3,000円か5,000円か1万円以上を寄付した人 ●（団体）：1チーム3～5人。食品10kg以上を寄贈し、3万円以上を寄付したグループ ■寄付先の指定：今回参加している県内のFBのどこにでも寄付できます。 ①フードバンク県北 ②フードバンクうつのみや ③フードバンク日光、④フードバンクもおか ⑤フードバンク鹿沼 ■両方参加：県北と宇都宮の両方参加する人は、2割引きの寄付額でOKです（5,000円か、8,000円か16,000円以上の寄付） ※食品は、できれば多くの人から集めてください。（ほしいもの：缶詰、レトルト、麺類） ※寄付は、自分で寄付するだけでなく、声をかけて身近な人からも集めてください。</p>	<p>4、広報 WEBサイトによる広報。①チャレンジャーのイベントを逐次公開 ②フードバンクの周辺にいる困窮者の実情を記事で紹介する（毎週2回更新）</p> <p>5、募集 ①県北 ・参加者：150人（団体：10チーム、個人：100人） ・ボランティア：50人 ・協賛企業（施設）…10社：寄付および参加者への支援飲料、食品など ②宇都宮 ・参加者：200人（団体：15チーム、個人：130人） ・ボランティア：60人 ・協賛企業（施設）…15社：寄付および参加者への支援飲料、食品など</p> <p>6、目標金額：360万円 ■県北：160万円、（団体30万円、個人50万円、協賛40万円、寄付のみ40万円） ■宇都宮：200万円（団体40万円、個人60万円、協賛40万円、寄付のみ60万円）</p> <p>7、開催までの日程 ※実行委員会（第2・第4土曜16時～） ①6/26（※この日のみ18：00～） 募集要項決定、協力者の募集（個人・企業・団体等）、参加者募集。 ②7/10：宇都宮コース決め、チラシ・ラフ ③7/24：パンフレット完成。協賛企業募集開始 ④8/14：（参加チーム等によるファンドレイジング開始） ⑤8/28：第1次締切 " ⑥9/11 " ⑦9/25：第2次締切 "（当日ボランティア打合せ会） ・10/2：県北21 ・10/9：宇都宮22</p>
--	---

（4）休眠預金活用事業「新型コロナウイルス緊急支援 ひとりにしない、させない助成」（NPOの活動資金の援助事業）

一般財団法人日本民間公益活動連携機構より、当会が資金分配団体として選定され、本県のコロナ対応活動の助成が可能となった。コロナによる「孤立」と「分断」に起因する様々な困難な状況下にいる方の支援を取り組む8団体（総額19,854,644円）の助成を行った。また助成採択団体へは、月1回の活動を振り返るフィードバックミーティング、マネジメント力強化のための研修（全5回）、全体の連携促進（中間発表、成果発表）などを実施し、資金提供だけでなく、助成による活動実績から自ら寄付や会費などの自主財源を集めることができる組織的成長支援を実施した。

「休眠預金活用 新型コロナウイルス対応緊急支援助成」（2021・3月～2022年3月）		
<p>●休眠預金活用 新型コロナウイルス対応緊急支援助成募集要項</p> <p>1、目的・趣旨 新型コロナウイルス感染拡大によって、困難を抱えた人たちの暮らしはその度合いを増していることを背景に、休眠預金の活用により、様々な困難を抱える人たちの支援や、より誰もが住みやすいまちを作る栃木県内の活動を助成金の提供と伴走支援により応援する。あらゆる人が、「孤独ではない」と感じられる社会を創るために。</p> <p>2、助成額・助成期間・対象地域 本助成による実行団体への助成総額は、総額2,900万円。また、1実行団体あたりの助成額は、50万円～500万円。</p> <p>3、助成期間（実行団体の事業実施期間）：資金提供契約日～2022年2月28日の間の活動を助成。</p> <p>4、支援活動範囲：栃木県内での活動に対して。</p>	<p>5. 選定基準 資金分配団体は、以下の選定基準に基づき選定を行います。 （ア）ガバナンス・コンプライアンス：包括的支援プログラムに示す事業を適確かつ公正に実施できるガバナンス・コンプライアンス体制等を備えているか （イ）事業の妥当性：事業対象となる社会課題について、問題構造の把握が十分に行われており、事業対象グループ、事業設計、事業計画（課題の設定、目的、事業内容）が解決したい課題に対して妥当であるか。 （ウ）実行可能性：業務実施体制や計画、予算が適切か （エ）継続性：助成終了後の計画（支援期間、出口戦略や工程等）が具体的かつ現実的か （オ）先駆性（革新性）：社会の新しい価値の創造、仕組みづくりに寄与するか （カ）波及効果：事業から得られた学びが組織や地域、分野を超えて社会課題の解決につながることを期待できるか （キ）連携と対話：多様な関係者との協働、事業の準備段階から終了後までの体系的な対話が想定されているか</p>	<p>■助成総額 8団体 総額19,854,644円 N)とちぎみらいwithピア 2,017,954円 N)サロンみんなの保健室 903,000円</p>
<p>N) FB うつのみや 5,000,000円 N) えんがお 3,276,000円 N) 風車 820,000円</p>	<p>N) キーデザイン 2,557,100円 N) 那須高原自然学校(コンソーシアム) 4,667,120円 N) 子どもの育ちを応援する会 613,470円</p>	

F. 【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

(概況) 2021年度はコロナ禍により、子ども食堂は4-8月弁当、9-10月中止、11-2月は食堂開始、3月から弁当と、休止・開始・弁当状況により活動が変化した。ボランティアベースでの運営であり、意思疎通が難しかった。一方で**フードバンク県北**は出庫が1.2倍増加した。また**FB食品の定期配布会**を毎月実施し困窮者のアセスメントをおこなった。チャリティウォークも実施し昨年を上回る寄付があった。さらにサンタ de ランの事後イベントとしてクリスマスウォークを初開催した。参加者には好評であり、また60万円の寄付を集めた。

年度末になり「日本財団子ども第3の居場所事業」の助成金を獲得し次年度の運営体制の構築に着手した。

この他に若者の自活力向上「ヤスイの食卓」や、「竹藪から竹林にプロジェクト」などボランティアによる自発的な活動が盛んになった。

(1)生活困窮者支援 (生活困窮者の支援)

①フードバンク県北

フードバンク県北では、2021年度は**7.9トンを受贈**、うち**6.7トン(595件)**を生活困窮者に寄贈した。昨年よりも件数が増加。コロナ禍で立ち直りができない人が多く長期の困窮状態が続いている。

食品配布会を毎月第2土曜日に実施し、困窮者と徐々に困窮世帯との関係性ができ、支援のきっかけを探れるようになった。

10月の「チャリティウォーク県北21」を主宰し、参加70人寄付100万円を集めた。フードバンク県北の知名度が向上した。

若手のボランティアが多くなったことで、宇都宮の本部との連絡や「ヤスイの食卓」での交流・定着が進んだ。

2020年度							2021年度						
							(kg)						
月	受入			出庫			月	受入			出庫		
	件数	個数	重量	件数	個数	重量		件数	個数	重量	件数	個数	重量
4月	14	633	397.0	55	589	339.0	4月	43	928	522.1	74	943	496.3
5月	11	1276	589.6	35	369	462.0	5月	25	758	419.1	50	743	391.8
6月	24	720	420.8	32	355	321.5	6月	28	1323	309.0	47	809	353.7
7月	21	351	406.8	25	324	191.6	7月	29	436	452.1	61	915	553.8
8月	42	640	335.8	68	1440	654.1	8月	42	1127	316.9	42	715	390.5
9月	48	570	698.6	50	497	379.0	9月	57	837	1403.0	50	929	745.5
10月	50	825	1496.5	46	651	487.2	10月	88	1121	1625.7	39	771	644.2
11月	20	87	448.8	41	452	459.5	11月	55	601	636.1	50	1442	679.3
12月	51	1015	1389.1	53	687	513.8	12月	35	688	538.7	44	934	653.8
1月	32	426	458.6	46	573	374.0	1月	31	497	512.7	49	784	396.0
2月	27	1464	755.2	63	753	610.4	2月	20	839	819.2	43	887	847.3
3月	39	888	453.6	59	990	611.4	3月	24	674	377.6	46	934	511.5
合計	379	8895	7,850.4	573	7680	5,403.5	合計	477	9829	7,932.2	595	10806	6,663.7
月平均	31.6	741.3	654.2	47.8	640.0	450.3	月平均	39.8	819.1	661.0	49.6	900.5	555.3
前年度比	117%		205%	142%		140%	前年度比	126%		101%	104%		123%

(2)子どもと親の困窮対策 (生活困窮者の支援)

①「子ども食堂」の運営と「学習支援」

子ども食堂は毎週火・金に実施した。火曜日は子どもサロンとして学習支援中心、金曜日は子どもと地域の人に来られるようにした。しかし、コロナ禍で8・9月と、2・3月に休止し、また4・8月と3月は弁当にした。1年を通して難しい運営を迫られた。さらに12月からは毎週金曜日は休止し週1回になった。

年度末になり、日本財団の「子供第3の居場所事業」の受託が決まり、事業準備のため食堂再開とスタッフの補充をおこなった。

子どもサロン/地域サロン まとめ (2021)						
月	回数	利用数	ボラ数	うち学習ボラ	うちFBボラ	備考
4月	9	116	63	11	-	
5月	7	115	53	9	-	
6月	9	158	56	5	12	
7月	8	141	42	5	8	
8月	4	73	21	0	6	
9月	-					8/24-9/28間休み
10月	8	123	65	10	8	
11月	8	93	64	8	5	
12月	3	45	14	6	1	
1月	3	50	12	0	10	
2月	1	19	4	0	3	2/1-3/15の間休み
3月	2	40	8	0	6	

3. 事業報告【その他の事業】

実施しなかった。

4. 財政・組織運営

(1) 会員

会員数は**535人（団体27、支持200、賛助308）**、会費は**209万円**になった。会員数はほぼ横ばい状態である。会費収入は昨年より+3万円である。

通常の会員拡大の方策は、①団体会員などの新規会員の拡大、②現会員の継続の2つである。会費の振り込み手続きが面倒であることも予想され、「**つつい未納**」になることが多い。**クレジットカード**での振り込み（ホームページから手続き）、会員総会、Vネットの集い等で**現金で納入**できることも周知している。更に会員更新のお知らせやお礼状を郵送で送ったことも未納者や退会者を最小限に抑えている。

会員拡大は事務局の職員が中心に行うことが多く、声をかける人が限定されているのも会員増加につながっていない、会員になる目的をもっと打ち出せるようにしなければならない。

対応策として従来の人を集める手法に代わる活動を打ち出し、ネット環境を使い多くの人と接点を増やす。また、とちコミの事業やフードバンクなど**ボランティアやファンドレイジングと連動した活動**にできるように事業を変えている。

(2) 寄付

年間寄付額は1,903万円になった（前期2,673万円）。

とちコミの助成「**たかはら子ども未来基金**」に継続的に拠出する寄付（毎年100万円）があった。

また、NPO法人会計基準によるボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、最低賃金で換算して寄付として充当した。今期は**ボランティア活動評価益は295万円**となり前期より46万円増加した。

現在の寄付金の項目は以下の通り。

① 一般寄付	通常の寄付（災害救援ベンダーの寄付も含む）	銀行引落し 年1回とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法が選べる。	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる
② 年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日～1月末まで		
③ 災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付		
④ コロナ支えあい基金	コロナ禍に取り組む団体への寄付		
⑤ サンクスVクラブ	Vネット“後援会”寄付金(後述)		
⑥ フードバンク寄付	フードバンク事業に対する寄付		
⑦ プレミアム寄付コース	A：SOSを出している人の人生寄り添いコース：50,000円 B：創意工夫のある郷土づくりコース：100,000円		
⑧ とちぎコミュニティ基金	「とちコミ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている ①とちコミ寄付 ②SUNSUN プロジェクト寄付	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる	

(3) 事業収入

受託事業収入は**530万円718万円**と昨年より188万円減少。また**助成金は3,437万円**と休眠事業の助成金が大幅に増えた。

バランスのとれた財源構成が重要だが、安定した委託事業等はない。大局的には社会的苦難な状況の時こそ存在意義を発揮し、本来事業を伸ばすことが必要である。寄付をのばすなど、中期計画に沿った努力が必要である。

(4) 組織

① 会員総会

支持会員・団体会員による会員総会は5月30日に実施した。

定期会員総会は132人出席（うち委任状117人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5月23日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

② 来年どうするか会議（創出会議）、来年これしたいコンペ（企画会議）

本会職員とボランティアスタッフを集め来年度の事業を考える**来年どうするか会議**をワールドカフェ方式で開催した。部門を超えて人が交わることで新たなアイデアを生み出すきっかけになった。来年どうするか会議に続き、必要な予算を話し合うために来年これしたいコンペを実施した。予算の話よりも事業とボランティアのマッチングが主題の会議になった。

月日	会議名/出席人数
11/20	来年なににするか会議 / 23人（進行：宮坂）
3/12	来年これしたいコンペ / 20人（進行：小澤）

③ 理事会

理事会を3回開催した。

月日	議題/出席者
5/23 監査	菅又、菊池
5/26 第1回理事会	① 2020年度事業報告・決算について ② 理事の退任について 矢野、廣瀬、徳山、柴田、柴田、荻津、山本、大木本
11/19 第2回理事会	① 上半期の事業報告について / 矢野、中野、荻津、大金、柴田、山本、飯島、荻津
3/26 第3回理事会	① 2022事業計画・予算について / 矢野、徳山、大金、塚本、藤田、廣瀬、飯島、荻津

⑤ 職員会議・ケース検討会

第2・4水曜10時から、**職員会議**を毎月2回開催した。うち1回は運営委員会とした。総合相談支援センター運営の情報共有と事業執行についての会議をおこなった。**ケース検討会**は第1・第3水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。対面だけでなく、オンライン(zoom)でも参加できるようにした。

●運営委員会・職員会議	4/14、4/28、5/12、5/26、6/14、6/28、7/14、7/28、8/11、8/25、9/8、9/22、10/13、10/27、11/10、11/24、12/8、12/22、1/12、1/26、2/9、2/23、3/9、3/23
●ケース検討会	4/7、4/21、5/19、6/2、6/16、7/7、7/21、8/4、8/18、9/1、9/15、10/6、10/20、11/3、11/17、12/1、12/15、1/5、1/19、2/2、2/16、3/2、3/16

⑥ 若者会議、Vレンジャー

(ア) 若者会議

Vネットに関わる学生や若者ボランティアが増えたことを受け、交流や新たな活動の創出を目的に、若者を対

象に会議2回をおこなった。対象は、ラジオ学生やVレンジャー、フードバンクのボランティア等である。

5月に行った若者会議は、ボランティア・リーダーを対象に、**ボランティアマネジメントやチーム運営**について、講義とワークショップ形式で行った。

2月に行った若者会議では、**企画・運営から学生4人とともに行った**。役割分担をし、当日までに打合せを3回行った。積極的に行動する同年代の話を聞いたり、ボランティアや子どもの貧困について話し合ったりすることで、「**自分ももっと視野を広げて行動したい**」、「**ボランティアに対する見方を共有できた**」などの感想を聞くことができた。企画に携わった学生も、協力して運営する大変さと楽しさを味わえたようだった。

日時	内容	参加者
5/22	ボランティア・リーダーWS (大木本進行)	計8人参加 (zoom) 伊藤、伊東、山本、櫻井、木原、田中、大木本、宮坂
2/12	第1部 先輩に聞く「ボランティアの魅力」 第2部 ボランティアとは○○だ！WS 第3部 フードバンクと貧困勉強会	計19人参加 (対面) 寺田、宮坂、伊藤、高橋、櫻井、 (zoom) 松葉、伊東、神山、勅使河原、國安、鈴木、村上、芳賀、中村、齋藤、藤倉、土崎、若者サポートステーション、星野

(イ) Vレンジャー

Vレンジャー会議は月に1～3回おこなった。企画についての打ち合わせや、企画直前は準備をおこなった。さらに、会議の他に親睦を深めるための時間を設けたり、新メンバーが参加した際は随時活動の紹介をしたりした。

月 /回数	詳細
4月 会議3回 企画1回	4/2 会議 (山崎、廣居、大小原、伊東、布施、宮坂、村上)、4/4 春企画 (山崎、廣居、村上、三上、吉沢、青木、宮坂、大小原、大木本、布施)、リーダーチーム打合せ (5人山崎、廣居、村上、大木本、宮坂)、会議 (4人山崎、村上、伊東、宮坂)
5月 会議2回 企画1回	5/7 会議 (山崎、廣居、村上、宮坂、伊東)、5/8 新歓 (7人山崎、廣居、村上、田中、大小原、伊東、田中、+参加者4人+学生取材班2人=13人)、5/19 会議 (山崎、廣居、村上、大小原、佐藤、山本、芳賀、鎌田、大木本、伊東、宮坂)
6月 会議0回 活動1回	6/12 上大曾子ども食堂ボランティア (大小原、宮坂)
7月 会議3回 活動3回	7/11 夏企画下見@しのい (大小原、芳賀、高橋、山本、廣居)、7/14 会議(10人宮坂、山崎、芳賀、中島、佐藤、廣居、村上、菅原、大小原、伊東)、7/22 夏企画下見@矢板 (大小原、高橋、廣居、芳賀、中島、菅原)、7/24 大田原スマイルハウス会夏祭り手伝い参加 (大小原、村上、中島、宮坂)、7/26 会議 (9人大小原、村上、廣居、山崎、中島、山本、芳賀、宮坂、佐藤)、7/28(水) 子どもの居場所たんぼぼ小田と打合せ@zoom (佐藤、宮坂)
8月 会議3回 ラジオ関係1回	8/7 ラジオ企画会議 (中島、山崎、櫻井、矢野、宮坂)、8/11 会議 (山崎、菅原、廣居、伊東、宮坂、zoom 芳賀、山本)、8/21 会議 (芳賀、大小原、廣居、山本、高橋、宮坂、阿部)、8/27 ラジオラジオ取材同席 (枝、櫻井、山崎、中島、宮坂)
9月 会議1回 活動1回	9/4 会議 (山崎、廣居、村上、中島、大小原、zoom 高橋、芳賀、宮坂)、9/21 オンラインお話企画 (子どもの部屋たんぼぼ子ども4人、小田、菅原、宮坂)
10月 会議3回 活動1回	10/5 オンライン企画打合せ (子どもの部屋たんぼぼ小田、菅原、芳賀、中島、佐藤、廣居、宮坂)、作戦会議 (山崎、村上、芳賀、宮坂)、10/21 会議 (山崎、山本、佐藤、新山、中村、大小原、宮坂)、10/23 上大曾てらこや屋食堂 (中島、宮坂)
11月 会議2回 活動1回	11/10 オンライン企画振り返り会 (子どもの部屋たんぼぼ小田+1、芳賀、宮坂)、会議 (山崎、中村、高橋、大小原、山本、中島、阿部、宮坂、布施 zoom 廣居、村上、芳賀、福島)、11/13 上大曾子ども食堂 (高橋、中島、宮坂)
12月 会議1回 企画1回	12/5 足尾企画 (山崎、中村、中島、芳賀、土崎、小林、曾根、山本、佐藤、高橋、菅原、廣居、村上、宮坂、柴田ご家族4人、+足尾の方々)、12/11 会議 (山本、高橋、佐藤、山崎、中島、廣居、高橋、菅原、阿部、芳賀、宮坂)
1月 会議1回	1/13 会議(山本、山崎、佐藤、中島、芳賀、齋藤、伏本、中村、伊東、宮坂 zoom 高橋、廣居)
2月 会議2回	2/21リーダー打合せ (高橋、佐藤、宮坂)、2/25会議 (芳賀、中村、中島、佐藤、高橋、伏本、山本、齋藤、高橋、茨木、宮坂)
3月 会議2回	3/21 リーダー会議 (高橋、佐藤、宮坂)、3/22 会議 (高橋、佐藤、茨木、福島、勅使河原、中島、山崎、芳賀、小野、坂田、齋藤、廣居、宮坂)

(5)チームの会議・活動日

①新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱

…毎週水曜日 13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在 3~4 人。

②フードバンク会議

…毎週木曜15:00から会議を行った。(詳細は、FBで報告)

③サンクスVクラブ(後援会)

サンクスVクラブは年間2万円以上の寄付をいただいた人が来られる寄付感謝会である。メンバー制をとっているが、クラブ員の高齢化のため、参加が少ない。年2回の定例会(親睦会)を行う「ゆるやかな」つながりが持てる会であるが、参加方法、内容などの見直しが必要である。今期はコロナ禍ということで開催を見送った。

サンクスVクラブ 会則 2005年7月30日 (第1条) 本会はサンクスVクラブと称する。 (第2条) 本会の事務局を宇都宮市塙田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 (第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 (第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。	1. 寄付に関すること 2. クラブ員の親睦に関すること 3. その他、目的達成に関すること。 (第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 (第6条) 本会に次の役員を置く。 [1] 代表 1名 [2] 副代表1名以上	[3] 会計 1名 (第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 (第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 役員名簿 代表:高橋昭彦さん 副代表:高木敏江さん 会計&事務局:菊池順子
サンクスVクラブ 9/27 (24人)、3/28 (13人)		

監査報告

2021年度の業務および、一般会計決算書、特別会計決算書は監査の結果、適正に処理されていることを報告します。

2022年 月 日

監事 _____

監事 _____